

新編武藏國風土記稿

久良岐郡

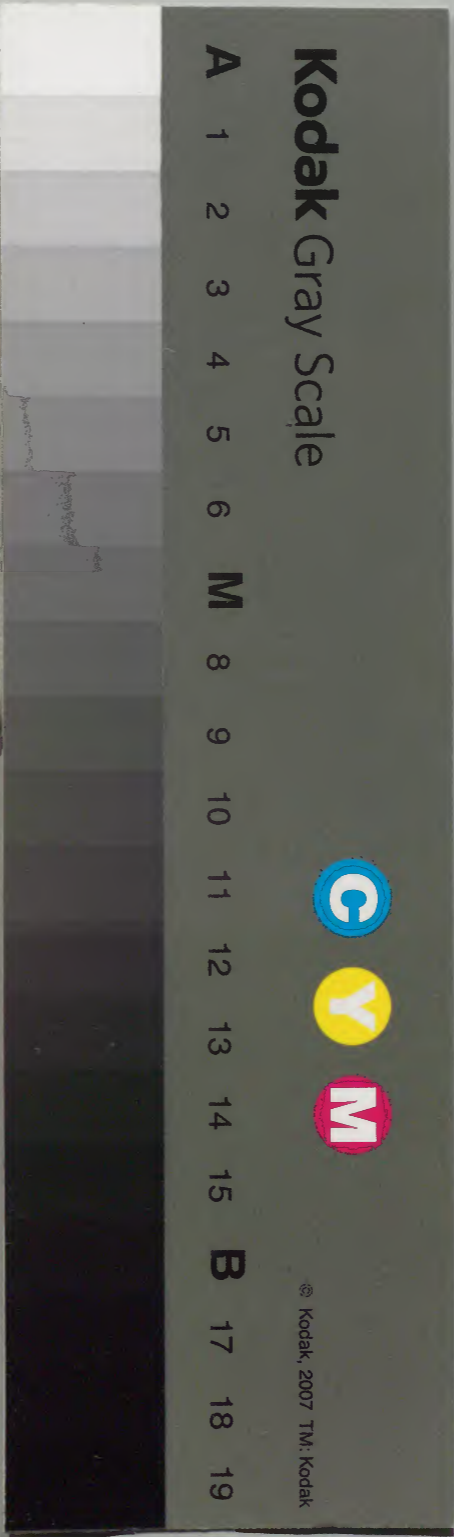
卷之七十三
卷之七十四

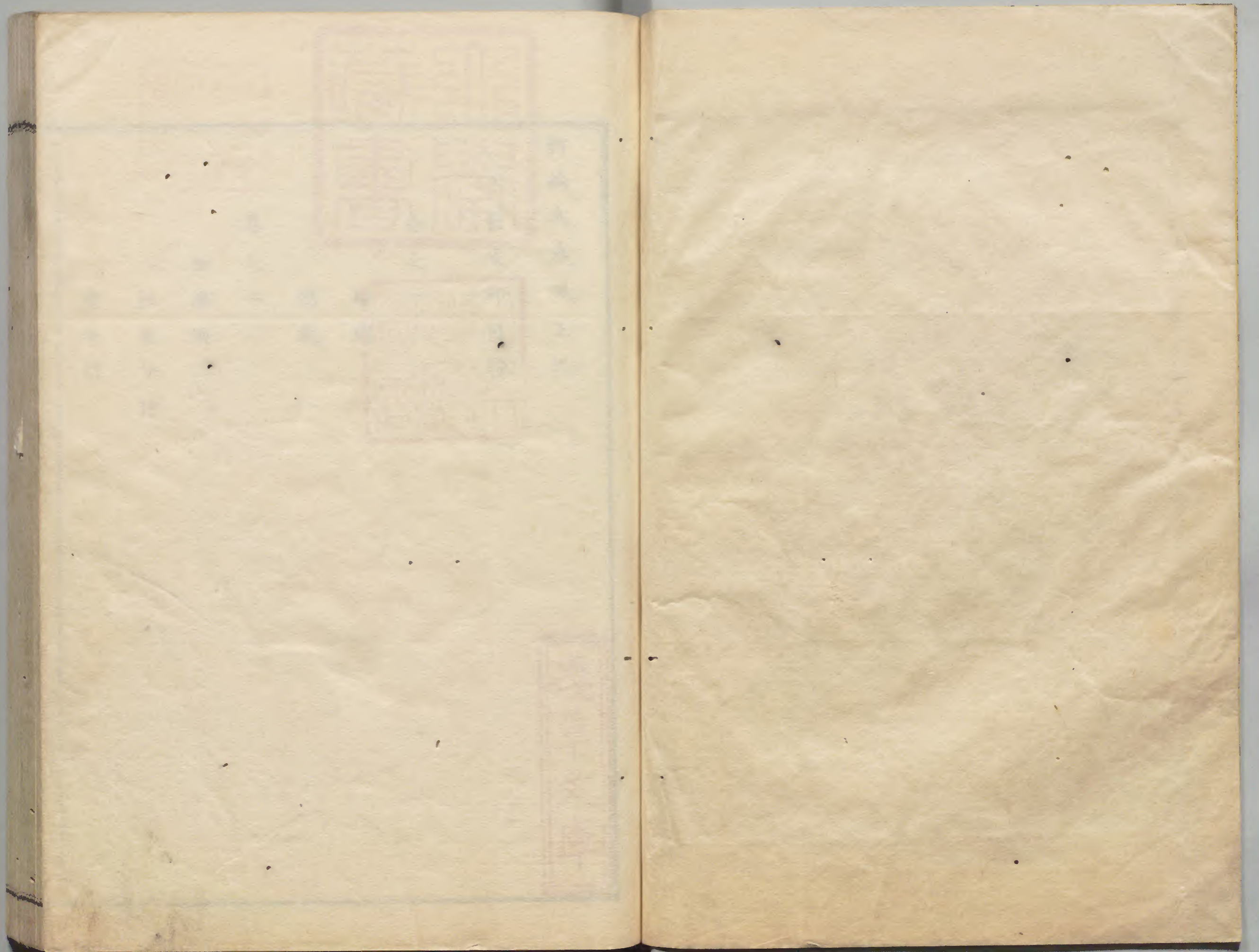
二五五	二三	一六五	和書門
冊	架	函	類

五三	二五五	一六五	和書
函	冊	架	類

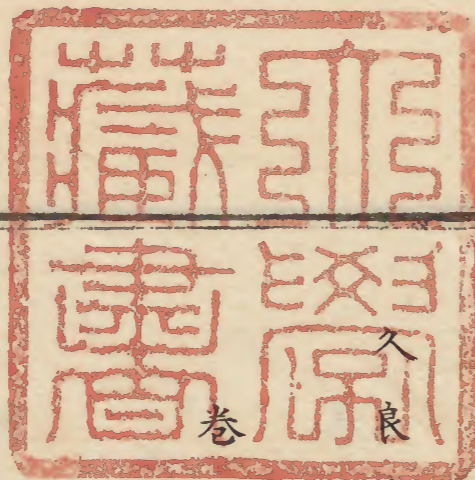
歳時地理
三

内閣文庫	
番號	和 16510
冊數	255 (73)
函號	173 210





新編武藏風土記



久良岐
卷之



郡圖

總說

卷之二

金澤領

社家分村

寺分村

淺草文庫



平分村

洲崎村

泥亀新田
廢金澤新田

町屋村

卷之三

金澤領

寺前村

卷之四

金澤領

谷津村

柴村

富岡村

宿村

坂本村

赤井村

氷取澤村

宮ヶ谷村

金井村

宮下村

吉原村

卷之五

本牧領

本郷村

北方村

横濱村

中村

堀之内村

根岸村

戸部村

尾張屋新田

卷之六

本牧領

瀧頭村

磯子村

岡村

吉田新田

太田村

井戸ヶ谷村

蔭田村

卷之七

本牧領

上大岡村

下大岡村

森公田村

森雜色村

森中原村

杉田村

中里村

矢部野村

峯村

栗木村

田中村

卷之八

本牧領

雜色村

松本村

関村

寂戸村

久保村

別所村

中里村

弘明寺村

永田村

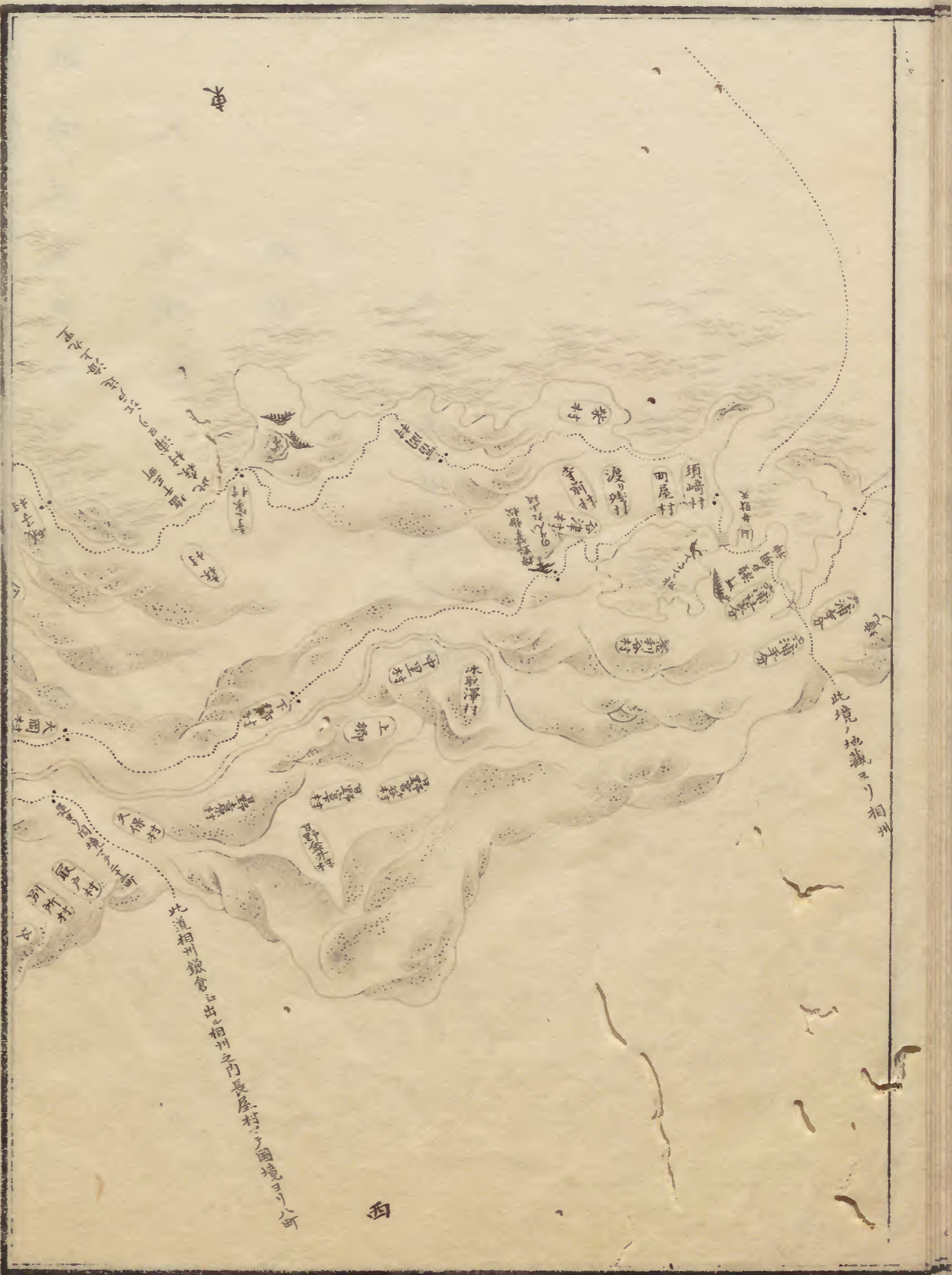
引越村

新編武蔵風土記 卷之七十三 目錄

久良岐郡之二

郡圖

總說

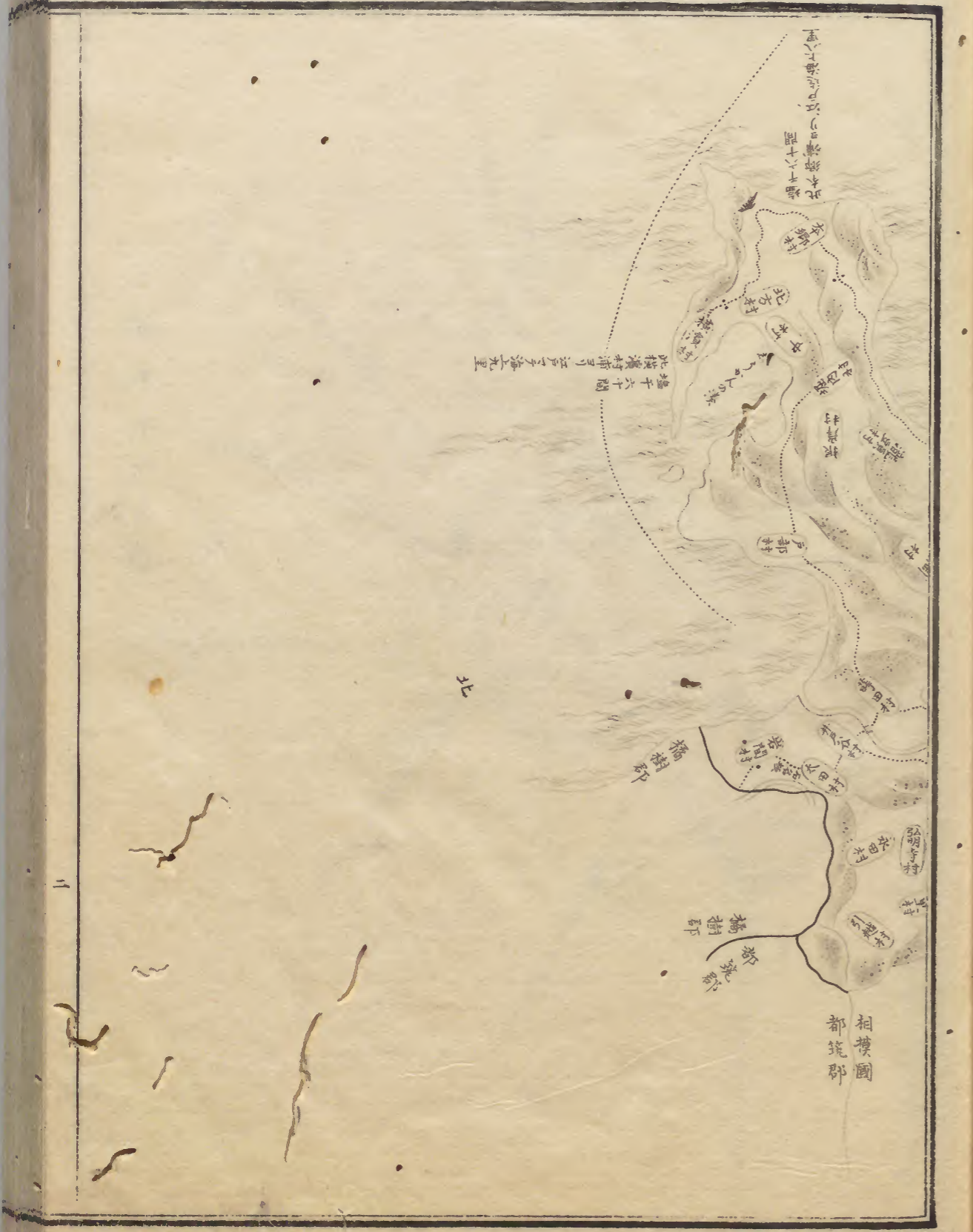


東

西

此境、地蔵、二相州

須崎村
四屋村
渡野村
氷野村
上野村
大園村
須崎村
四屋村
渡野村
氷野村
上野村
大園村
須崎村
四屋村
渡野村
氷野村
上野村
大園村



北

相模國
都筑郡

橋掛郡

湯千六十間
此境、地蔵、二相州
湯千六十間
此境、地蔵、二相州

二

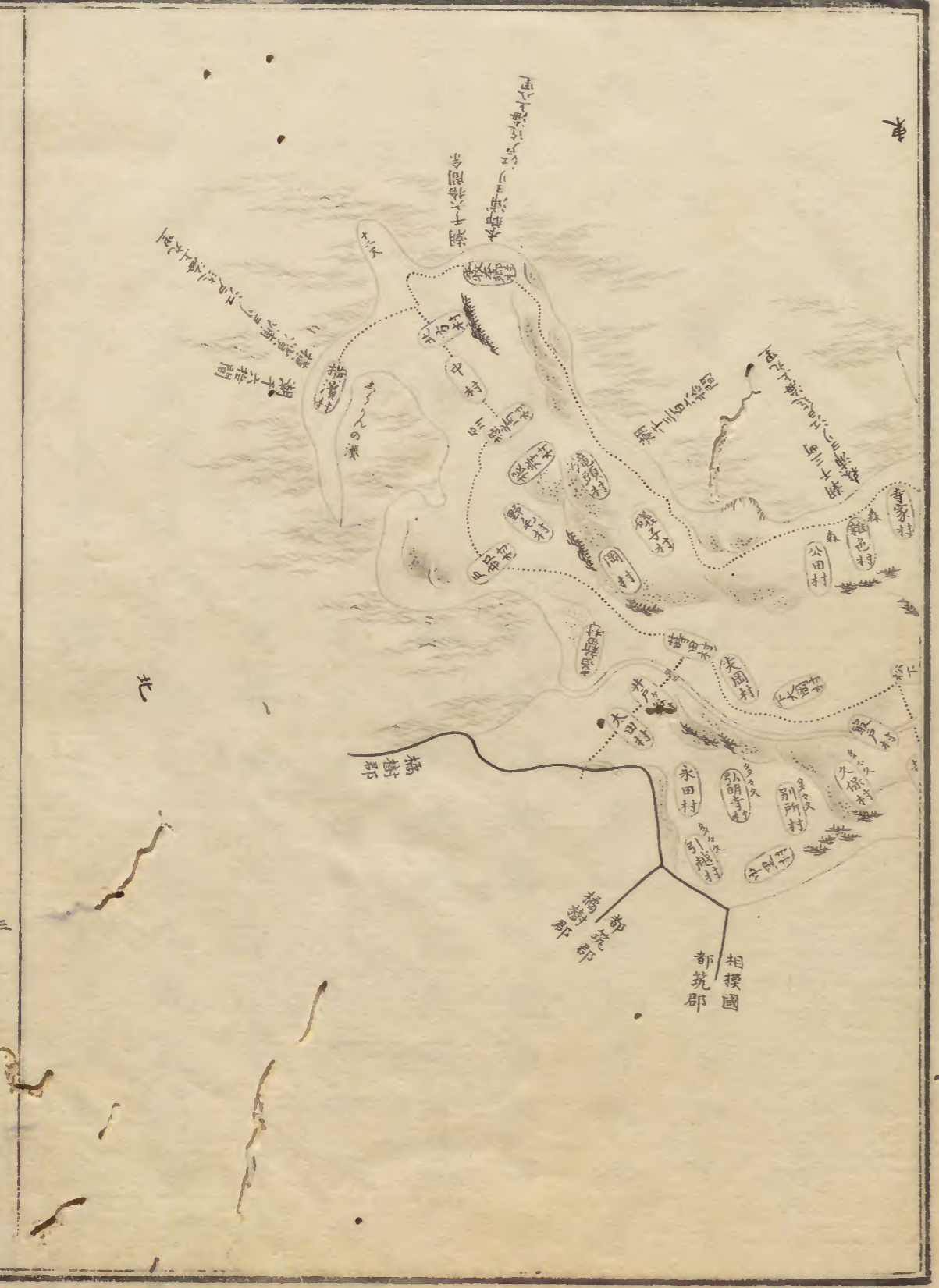
元禄年中改定圖



日野金井村ヨリ相模國下野庭村迄九町三拾五間

西

東



北

三

總説

久良岐郡ハ國ノ東南武相ノ界海面ニサレ出タリ。
 江戸ヨリ坤ノ方十里ニテ郡界ニ至ル。稱徳紀神
 議景雲二年六月癸巳。武藏國橘樹郡人飛鳥部吉志
 五百國白雉ヲ獲タル時奏シテ曰。國號武藏郡號久
 良云云。是郡名ノ古書ニ見ヘシ始ナリ。和名抄ニ久
 良ト記シ。久良岐ト訓ス。東鑑建久十年己未六月六
 日在中將源賴家古書始ノ時。改所善信武藏國海月
 郡事ト草案口ニ事。及仁治二年辛丑十月二十一日

將軍賴經方違ノ時。陰陽師恭貞晴賢行向武藏國海
月郡ト見一。海月ノ字ハ因假借ナレド。久良ノ唱始
終、クヲキト唱ハ。其語音下濁シテクヲゲニ近似ク
ルコトハ察スベシ。以後京將軍足利義詮貞治四年
鶴岡八幡社ニ出ヒシ文書ニ。久良郡久友郷ト記シ。
應安六年細川武藏守頼之カ鶴岡文書亦久良ト書
スル類。以餘儘コレアリ。其後文明五年磯子村真照
寺文書。及堀之内村寶生寺。同十年ノ文書。皆久良岐
郡ト記ス。此後ハ皆久良岐ト記スル時ハ。大概鎮倉
管領ノ此ヨリ唱ニヨリテ文字ヲ書添シ事知ベシ。

郡ノ地域。上古ノ沿革ハ得テ知ベカラズ。安閑紀ニ。
倉標立花多氷横浦四所ニ也。倉ヲ置シコト見ユ。倉
標ハ當郡ノ事ナラント云説アリ。按ズルニ。此四倉
皆多磨ノ府中ヨリ南ニ在カ。如クオモハルレバ。倉
標ノ唱轉訛シテ久良岐トナリモテ來シニ知ヘカ
ラズ。逸ノ後鎮倉將軍ノ頃ハ。雖テ距事遠カラズ。殊
ニ風景ノ勝地ナレバ。將軍モシハ。遊覽アリテ土
地ノ繁華大方ナラズ。仁治ノ頃六浦ノ切通開テ
後ハ。愈往來ノ便ヲ得タリ。室町將軍ノ時ニ至テハ
管領鎮倉ニ在住シ。猶此地ニ賑ヒシナレバ。故水

五

殿撰述ノ鎮倉志ニ。此地ヲ相州ニ附シテ收入トシテ
レシモ宜ナリ。御入國ノ後。江戸ヲ府城ト定メラ
レシヨリ。行程宿ヲ經ルニアラサレハ至ルコトヲ
得ス。故ニ今邊鄙ノ地トナレリ。郡域ハ西南相模國
三浦鎮倉ニ郡東ハ總テ海濱ニテ。良ニサシ出タル
ハ本牧村ナリ。因テ此浦ヲ本牧浦ト呼ブ。此所ヨリ
江戸迄船路八里ニ及フト云。西北ニ彎曲セル所ヲ
洲乾湊ト云。神奈川臺ト迄ク相望ム。北ノ地先ハ橋
樹郡界。乾ハ都筑郡界ニ至ル。廣々相州鎮倉郡界ヨリ。
海岸ヲテ二里。或ハ三里。表鎮倉郡岬村界ヨリ。橋樹

郡保上ノ谷界ニ至テ七里餘。土性赤土多シ。連山重
疊ニテ陸田山林ノ多ク。山間ノ平地ニ水田ヲ耕
ス。トイヘトモ。動モスレハ旱損ヲ患フ。海濱ニ至テ
ハ漁鹽ノ利ナリ。金澤道ハ北ノ郡界保土ノ谷宿ヨリ
郡内太田村ニ入。行程五里餘ニシテ町屋村ニ至ル。
コノ邊谷津寺前町屋洲崎寺分社家分平合等ノ村
村ヲ總テ金澤ト稱セリ。コノ邊ヨリ鎮倉浦賀ノ二
道アリ。鎮倉街道ハ守分村ヨリ相州鎮倉郡岬村ニ
達ス。浦賀街道ハ平合村ヨリ三浦郡浦御村ニ達ス。
コノ外洲崎村ノ内小名野嶋ヨリ乘船ニ海上ニ三里

ヲ經テ三浦郡横須賀村ニ移レル路ナリ。コノ浦賀
一ノ捷徑ナリ。共ニ金澤ニカ、ル。其地ノ著名ナル
ニ由テ金澤道ト呼ベリ。玉人ノ風俗他郡ニ變ル事
ナシトイヘトモ。郡域海道ノ東ニ僻在ナルヲ以寒
村多ク。土民モ鄙野撲質ナリ。サレド金澤ノ邊ハヲ
ノツカラ風俗モ率奢ニナラヘルハ鎌倉ノ遺風ナ
ルヘシ。郡域ノ沿革ヲ考ルニ、和名抄當郡八郷。都筑
郡六郷及餘戸ナリ。橋樹郡五郷ノニナル時ハ。當時
當郡彼ニ郡ヨリ大郡ニテ。今ノ如ク編小ナルヘカ
ラス。且星川諸岡ニ郷ノ如キ。今見ニ隣郡ニ地名遺

リ。又小田原役帳ニ今ノ橋樹郡岩間青木ノ地名ヲ
載セ。共ニ傍ニ久良岐郡ト記スル類ニ掬レハ。後世
境界變革シテ郡域ノ狭リシ事知ヘシ。此郡鎌倉將
軍ノ時ハ將軍ノ領地ナルヘシ。後管領ノ比ハ上杉
氏ナトノ領地ナリシニテ。小田原北條氏割據ノ比
ハ。旗下ノ人々分テ領地ニシ事役帳ニ載ス。御入國
ノ後モ旗下ノ知行及御料所交レリ。
郷名
倭名抄所載郷名七並郡家
鮎浦

布久良ト註ス。今此地名トシトイヘトモ
ヲ推ニ六浦ノ邊ナルベシ。鮎ハ倭名抄能魚ノ
部ニハ安由ト訓シテ。今ノ年魚ノ事ナリ。布久
ハ。同部ニ難難ト書ス。サラハ鮎ノ字難ノ字形
近ニヨリテ誤レルカ。又布久ノ訓誤アルモ知
ヘカラス。トカリ鮎浦ノ轉訛シテ。六浦ト唱フ
ルナルヘクオモハル。

大井

於保井ト註ス。今考ル処ナシ。

服田

波止太ト註ス。是モ考ル処ナシ。

星川

保之加波ト訓ス。今都筑郡ニ上星川村アリ。橋
樹郡ニ下星川村アリ。共ニ郡域ニ近キ地ナリ。
ハ。則此郷名ノ村名ニ變セシニテ。郡界後ニ改
マリシコト知ベシ。

郡家

ヲ今其所
傳ヘス。在

諸岡

毛呂予加ト訓ス。今橋樹郡ニ師岡村アリ。是モ
星川ノ類ナルベシ。按ニ鶴岡八幡所蔵。嘉吉元

年十二月二十六日前下野守其出也。文書
。鶴岡八幡宮本地護摩公料武藏國師岡保柴
關所事云々ト見エタリ。此師岡保モシクハ此
所ニヤ。サレト多磨郡ニモ師岡村アリハソノ
一サレヤ事ハ知ヘカラズ。

洲名

須奈ト註ス。今考ル処ナシ。

良椅

與之波之ト註ス。コレモ考ル処ナシ。

中古所唱

久友郷

相州鎌倉鶴岡八幡宮所藏。貞治四年七月二十
二日將軍義詮文書ニ。武藏國久良郡久友郷事。
故御所一圓御寄附状分、明也云云ト載セ。及同
所藏應安六年四月二十八日細川武藏守頼之
カ出口ニ狀ニモ。久良郡久友郷ト云タリ。今
久友ノ唱村名ニモ残ラズ。
六浦郷
郡内稱名寺所藏文永正慶正平康安應永等ノ
文書ニ。共ニ六浦庄ト記タリ。庄名ノ條並見

レハニ。又鎌倉圓覺寺塔頭黄梅院貯藏。應永三
十五年三月十二日。忠房守某等。進狀。武藏國
六浦郷瀬崎勝福寺云云。トアリ。東鑑ニ七六浦
或ハ六連トノ記シテ。郷庄等ノ別ナシ。既ニ
カノ書建久三年二月二十四日丁卯ノ條。於武
藏國六連海邊。因人上総五郎兵衛尉忠光。梟首
義盛奉之云云。又仁治元年十一月三十日巳未
ノ條。鎌倉與六浦津之中間。始可被當道路之由
有議定。打丈尺被配分御家人等。明春三月以後
可造之由被仰付トアリ。同二年辛丑四月五日。

六浦道被造始。是可旨急速沙汰之由。本年冬雖
被經評議。被始新路。為大犯土之間。明春三月以
後可被造之旨。重治定云云。同年五月十四日六
浦之路造事。此間頗懈緩。今日前武州監臨給。以
乘馬令運土石給。仍觀者莫不奔營。建長二年六
月三日。山内並六浦等道路事。先年輒為令融通
鎌倉。雖被直險阻。當時又土石埋其間。蒼云云。仍
如前可被沙汰。由今日被仰下。仍今日前武州令
監臨其所給之間。諸人群集。各運土石云云。又同
書是ヨリ前安貞二年四月二十八日。將軍家為

御遊覽渡御六浦云云。五月一日將軍家自六浦
還御。太夜御止宿六浦云云。十ト見ユレ。舊キ
地名ナリ。鎌倉大草子。應永四年正月二十四日
小山若犬丸ガ子ドモ二人ハ弱年ニテアリシ
ヲ。會津ノ三浦左京大夫是ヲ召捕鎌倉ヘ進上
シケルヲ。實檢ノ後六浦ノ海ニ沈ソラル云云。
又鎌倉九代記ニ。田村庄司則義小山若犬丸ニ
與シテ管領氏滿ニ叛ケル故。鎌倉ヨリ攻ケレ
ハ。則義ハ自害ス。其子丑歳七歳ニナリシヲ。生
捕テ六面ノ沖ニ沈ニガカケラレケルト云。是

等皆當所ノ事ナルベシ。

本牧郷

郡中石川寶生寺所藏。天文十四年六月三日禁
制書ニ。本牧郷石河村ト載ヒ。都筑郡猿山村百
姓佐兵衛所藏。天文十九年四月朔日小田原北
條家ヨリ出ヒシ文書ニ。五百貫文武州久良岐
郡本牧郷トミエタリ。今ハ領名トナレリ。

平子郷

コノ名モ。石川寶生寺所藏文書ノ内。應永二十
一年五月十三日補任状ニ。武州久良郡平子郷

内石河村寶生寺ト載ヒ。寶徳二年七月二日寄
進狀ニ。武州久良郡平子郷内禪馬之村寶光庵
領田九段息八百文云云ト記シ。寛正四年五月
九日寄附狀ニ。平子郷根岸村三分一云云。又磯
子村真照寺文明五年五月十四日ノ狀ニ。武州
久良岐郡平子郷内禪馬根岸兩村三分一之所
領十ト見エタリ。今ハ~~名~~名ニノニ残レリ。事ハ
真照寺ノ條ニ詳ナリ。

富田郷

郡中稱名寺所藏。正慶元年二月十六日武蔵守

貞時々文書ニ。六浦庄富田郷_{今者稱トエタ}
リ。按ニ~~浦~~浦字ノ誤ニテ。カバト訓ヒシナラ
シ。同寺所藏正平二十六年應永三十一年寺ノ
文書ニ。釜里谷釜利屋~~ナ~~書リ。餘ハ釜里谷郷
ノ條ニ辨セリ。

杉田郷

郡中関村東樹院所藏。天正十八年ノ禁制書ニ。
武蔵國久良岐郡十二郷内。杉内三村ト載セタ
リ。

釜里谷郷<sub>成作釜
利屋</sub>

稱名寺（近）。正平二十六年二月二十七日寄進
狀。六浦庄内釜里谷金澤兩郷云云（ト記）。應
永三十一年五月二日寄進狀。武藏國六浦庄
釜利屋郷白山堂事。任太建武二年六月十一日
并貞和六年二月二十一日寄附之旨云云（ト見）
ニ夕リ。此郷古ハ富田ト稱セシト見ニ。富田郷
名ノ條ニ辨セリ。

今所唱

釜利谷郷

説上ニ出。村三。

杉田郷

同上。村二。

禪馬郷

郡中石川寶生寺所藏。寶徳二年七月二日寄進
狀。及磯子村真照寺所藏。文明五年五月十四日
寄附狀等。共ニ村名ノ如ク記シタルハ。古ハ村
名ナリシ事明シ。猶平子郷ノ條並ニ見ルベシ。

今此郷ニ属スル村三。
笠下郷村七。
日野郷村四。

多々久郷 村七。

大岡郷 村

森郷 村三。

石川郷 村二。

庄名

中古所唱

六浦庄

稱名寺文書ノ内。文永十年四月二日ノ狀ニ。六

浦庄世戸堤内入海殺生事云云。正慶元年二月

十六日武藏守貞時文書ニ。武藏國六浦庄富田

郷云云。正平二十六年二月二十七日及應永三

十一年同三十二年等ノ文書ニ。六浦庄内釜里

谷ト見ユタリ。六浦ノ名東鑑ニ出レ寺ノ事ハ。

既ニ六浦郷ノ條ニイヘリ。

今所唱

六浦庄

説上ニ出。村二十九。

平子庄

同上。村九。

杉田庄

同上。村三。

小机庄

橋樹郡小机庄近キ地ナレバ。其唱ノ及ビシナ

ラシ。村七。

平之庄

名義ハ其村ノ條ニ辨セリ。根岸一村ノ唱フ。

領名

今所唱

金澤領

村十八。

本收領

村三十六。

村數

五十四村

右件ノ村ハ。今現在ノ數ナリ。正保年間ノ改ニ村

數四十三。元禄十五年改ニハ十村ヲ増テ五十三

村トナリ。其後一村ヲ増テ今ノ數トナレリ。

山川 附海

山 郡中多クハ山丘ノミナレド。數村ニカ、リシ

大山ナケレ。谷村ノ條下ニ記ヒリ。

金澤原 郡ノ東南。海邊ニ傍タル町屋洲奇寺前ノ

三村入會ノ原ナリ。其内田畑ヲ開キシ所モアリ。東

西二丁半南北六丁許。町屋村ニ傍タル所ハ町屋
原ト唱ヘ。洲崎寺前ノ二村及洲崎村ノ小名野島
等ニ係ル也。其地名ヲ以テ呼ベリ。

大岡川 新川 天谷川 三川同流ナリ。夕、経ル
所ノ地ニヨリテ名ヲ異ニス。水元ハ宿村ヨリ出
氷取澤村ニ入。同村小名宮ノ澤ヨリ涌出スル清
水ト落合テ一条ノ流トナリ。郡ノ中央ヲ北流ス
ルユト九五里。吉田新田ノ西南ニ至テ二流ニ分
レ。一ハ同村ト太田戸部ニ村ノ境ヲ流レ。洲乾湊
ニ至テ海ニ入。一ハ時田中ノ二村ニ傍テ吉田新

田ノ界ヲ經。北流シテ海ニ入。此川ノ源ハ僅ニ九
尺許。栗木村内ニテハ新川ト呼ビ。田中村ニテ天
谷川ト唱ヘ。又難色村ニ至テ再ヒ新川ト号ス。松
本村ノ邊ヨリ川幅次第ニ廣ゴリ。十間程ニ及ブ。
ソレヨリ大岡村ニ至リテ大岡川ノ名起レリ。
八幡川 郡内岡根岸等ノ村ヨリ出ル清水。瀧頭村
内ニテ一条トナリ。八幡川ト称ス。東流シテ海ニ
入。
二俣川 宿村ヨリ出ル細流ト。坂本村小名横手山
邊ヨリ涌出ル清水。村内小名松橋ニテ合シテ一

奈ノ川トナル。是ヲ二俣川ト名付。下流赤井村ヲ
經テ六浦ノ入海ニ入。

侍、從^レ川 水元相州鎌倉郡峠村ヨリ出テ。朝比奈切

通邊ノ清水ト合ニ。一条ノ流トナリ。郡内社家分

寺分平分三村入會ノ地ヲ流レテ。六浦ノ入海ニ

注ク。川幅四五間ナリ。鎌倉志ニ侍從川ハ照天姫

ノ乳母侍從ト云女。身ヲ投ル川ナリト云俗傳

アリト記セリ。

日野川 宮谷村ノ内小名大久保谷ヨリ涌出スル

清水西流ニ。同村小名榎戸ヨリ出ル清水。及び宮

下村ヨリ出ル細流ト合ニ。金井村ニ通レテ始テ

日野川ノ名ヲ得。同村ヲ過ルト二十丁許ニシ

テ。吉原松本寺ノ村々ヲ經テ久保村ニ至リ。大岡

川ニ合ス。

海 當郡南方洲崎村ノ出先。小名野島ノ邊ヨリ北

方木郷村十二天ノ鼻マテ三里餘。夫ヨリ西ノ方

都荒郡ノ境。尾張屋新田マテ。凡ニ里餘カ間海ニ

傍ヘリ。東ノ向ハ安房上總ノ二國ニ對ニ。相距

ト七八里ヨリ四五里ニ至。此海岸ノ村々多ハ漁

獵ヲ業トシ。生産ノ資トス。其内磯子村ノ邊漁者

最多ニ本郷村邊ニ至リテハ。本牧浦ト號ニテ古ヨリ魚獵ヲ業トビシコトハ。天正十五年ノ文書ニ見エタリ。其文本郷村ノ條ニ載ス。十二天出喜ヨリ西北ノ向ハ。近クハ神奈川ノ沖ニツキ。遠クハ在原郡羽田沖。及ビ品川ノ海面ウチ開ケタリ。

屏風浦 南方富岡村ノ出崎ヨリ。本牧浦ノ邊ニテ海岬ノ様恰モ屏風ヲ立タルカ如クナレバ。此唱アリ。本牧浦ハ本郷村舊家勘右衛門カ所藏。天正十五年ノ文書。既ニ此名見ユ。舊ナ唱ナリ。此邊ヨ

リ江戸マテ海上九里餘。潮干三四丁。或ハ五六丁。此濱ニテ夏ハカツラ網。或ハ手繰網ナト云ルモノヲ以テ漁シ。冬ハケタト云繩網ヲ以テ海荒ヲ得ルト云。

金澤廢湊 今其遺跡ヲ失フトイヘトモ。洲崎ノ邊ナルハニ。田國雜記ニ洲崎ノ湊トイヘル所ニ至ル。昔頼朝御ノ鎌倉ニ住セタマフ時。金澤榎戸浦河トテ三ノ湊ナリケルトカヤト見エタリ。才ヒフニ文明ノ比ハ。既ニ此湊廢セシナラン。此浦ニ唐船ノ着ヒシナト云コトヨク存セリ。

洲^シ乾^ク湊^ツ 郡ノ北方横濱戸部二村及吉田新田ノ間
 二アリ。古ハ秀開或ハ宗開トモ書セリ。其名ノ起
 リハ土人モ傳ヘカレト。正保郷帳横濱村ノ高ヲ
 記ヒシ傍註ニ。六石一斗五合秀開寺領ト見ユレ
 バ。當時秀開寺アリシヨリノ名ナルニヤ。爰ヨリ
 江戸ニテ船路八里。古ハイト廣キ入江ナリシガ。
 次第ニ干瀉トナリ。万治年中吉田新田ヲ開キ。及
 横濱ニ傍ヘル新田ヲ開キシニ。今ハ東西十二
 丁。南北四丁餘ノ入江トナリ。大船ノ入ヘキ湊ニ
 アラサレハ。自然ニ廢セルナリ。

産物

鯛^{タイ} 烏^カ類^{レイ}魚^イ 比^ヒ目^メ魚^イ 牛^{ウシ}尾^ビ魚^イ

石^{イシ}首^{シメ}魚^テ ア^アイ^イナ^ナノ 鱧^{エイ}魚^ゴ 章^{シヤウ}魚^コ

烏^イ賊^カ魚^イ 沙^サ喫^{キョク} 水^{ミヅ}母^ボ 牡^{ウシ}蠣^{カキ}

蛤^{カキ} 蛸^{シヤウ} 蛤^{カキ} 蛸^{シヤウ} 蛤^{カキ} 蛸^{シヤウ}

按ニ鯛沙喫章魚ノ類。古ヨリ當郡ノ海ニテ産セ
 シ事ハ。戸部村ニ傳ル小田原北條氏ヨリ出セシ
 文書ニモ見エタリ。又北條家ヨリ葛網ト云モノ
 ノ本牧浦ニ置タル由。本郷村民勲右衛門所藏天
 正十五年ノ文書ニ載タリ。此葛網ト云ハ鯛ヲ獵

スル網トイヘリ。今ハ專ラ製海流海流腸等其餘。
又バカノノザシトド云モノヲモ、夕ク製出ヒリ。
鹽、當所ノ鹽ハ鏡釜ヲ以テ製スルニ、其色殊ニ
白カラス。行徳鹽ヨリセ亦劣リ。按、當所ノ鹽
濱ハ古ヨリ始リシニヤ。稱名寺所藏、永和二年六
月二十二日ノ文書ニ、稱名寺領内外敷地鹽垂場
等事早仕觀應三年三月三日御寄進狀之旨可令
領掌ト載也。及、同寺所藏、康安二年五月二十四
日ノ文書ニ、鹽場ノ事出夕リ。
新編武藏風土記卷之七十三終

新編武藏風土記卷之七十四目錄

久良岐郡之二

金澤領

社家分村

寺分村

平分村

洲崎村

泥龜新田 廢金澤新田

西屋村

新編武藏風土記卷之七十四

久良岐郡之二

金澤領

金澤領ハ郡ノ南ノ方ニテ郡域三分ノ一ニシテ
 リ。金澤氏ノ系圖ニ。金澤五郎實長後賢金澤郷ヲ領
 シ。金澤ヲ氏トスト云。又東鑑ニ貞顯嘉暦四年四月
 十六日出家シテ金澤殿ト號ストアリ。此項專ラ是
 等ノ人ノ領知ナル事知ルヘシ。貞顯カ子武藏守貞
 將六波羅ノ探題トナリ。元弘三年五月二十二日相

州山内ニテ。討死セリ。此事諸記ニアラハル。サレド
此後ノ事蹟ハ系圖等ニ見エサレハ。詳ナルコトヲ
知ラス。又諸家系圖云島津主水正カ男左近大夫某。
遠山丹後守直景カ婚屬ニテ江戸ニ住ス。祖父永久
ヲリコノカタ武州金澤邊ヲ領セリト。今郡内谷津
寺前町屋洲崎寺分社家分平分寺ノ村々ヲ概シテ
金澤ト稱シ。最勝景ノ地ナリ。コノ外教村ノ領名ニ
ヒカ、レリ。サレバ島津氏ノ領セシハコノ邊ナル
事シルベシ。領内ノ東域。東ハ海ニ邊シ。西ハ相模國
鎌倉郡ニ境ヒ。南ハ同國三浦郡。北ハ郡中本牧領ニ

接ス。

社家分村

寺分村

平分村

此三村ハ古一村ニシテ六浦郷或ハ六浦庄ナト稱
 シ又六浦トノミモ唱ヘシト見ユ今ノ如ク三村ト
 ナリシハ何ノ頃ヨリト云コトヲ知ス正保改ニハ
 六浦ノニ字ヲ冠シテ社家分村寺分村平分村ト各
 村ニ分テ元禄ノ改ニモシカ記セリ今ハ六浦ヲ庄
 名ノミモ唱ヘテ村名ニハ冠ラス土人云社家分村

ハ。瀬戸明神ノ社領タル故名ツケ。寺分村ハ小名大
道ノ常福寺領ナリシヲ以テ云。平分村ハ寺社等ノ
領ニアラザル故稱セリト。按ニ小田原役帳ニ六浦
ヲ三箇所ニ載。其一ハ六浦社領ニ伏神主抱ト
記ス。是瀬戸明神ノ社領ニテ。今ノ社家分村ナルヘ
シ。一ハ六浦大道分トアリ。コハ大道ノ常福寺分ト
云コトニテ。寺分村ノコトナラン。又一ハ六浦木暮
分トアリ。コハ其故考ル所ナケレド。平分村ニテア
ルベシ。ナレバ永祿ノ頃未ダ三村ニハ分タザルベ
ク。既ニ三區トハナリシトニユ。六浦ノ名ハ古

ク聞エシ所ニテ。東鑑等ノ諸書ニ載シコトハ郡ノ
總説郷名ノ條ニ辨セリ。如此元一村ナリシ地ヲ分
テシ故。境史相雜リテ辨別シガタシ。由テ姑ク三村
ヲ合テイハバ。東西ノ徑リ凡三十丁南北二十丁餘。
東ハ入江ヲ隔テ洲崎村ニ對シ。西ハ相模國鎌倉郡
峠村ニ隣リ。南ニ同國三浦郡浦郷村ニ續キ。北ハ本
郡宿赤井坂本三村ニ並ビ。入江ヲ隔テ東北ノ方泥
龜新田ナリ。土地高低多ク。土性ハ砂真土赤土砂交
リ。山ハ岩石及ヘトノ處アリ。水陸ノ田相半シ。旱損
ノ歳多ケト。又潮水ノ患モアリ。村内所々ニ秣場

了り。江戸日。本橋ヨリ行程十二里餘。氏家社家分村
六十軒。寺分村ハ三十二軒。平分村。百四十八軒十
リ。此邊ノ海中ニ水雲ヲ産ス。コレヲトリテ眞品ト
モナヒリ。村内鹽濱アリ。耕種ノ暇ニハ鹽ヲ製テ餘
業トシ。又渙獵ヲナセルモアリ。此村往古ノ領主ハ
傳ヘサレド。東鑑寛元五年六月六日ノ條ニ。武藏國
六浦庄領主陸奥掃除助實時トシ。一久リ。又同書ニ。
六浦三郎同平威同六郎同七郎。十ド称セシ人アリ。
是等モ六浦ノ内ヲ領セシ人ニヤ。社家分村ハ中古
一、圓ニ瀨戸明神ノ社領ナリシヨシ。今ハ其所ニテ

百石ノ地ヲ附ヒラレ。寺分村ハ村内常福寺領ナリ
シコトハ。前ニ云ル如シ。御入國ノ後瀨戸社領ノ
外ハ皆御料トナリ。正保ノ頃ハ御代官八木九兵衛
正重支配シ。其子次郎右衛門正明。子源七郎重縁相
純ヲ支配シガ。寛文中久世大和守廣之ニ賜ヒ。
其後又御料ニ復シ。元禄九年米倉丹後守昌尹ニ賜
ヒ。今其子孫丹後守昌壽カ領知ト。瀨戸社領入會ノ
村ナリ。檢地ノ年代詳ニセス。村内ニ鑛倉海道係ル
東ノ方洲崎村。ヨリ入テ。西ノ方相州峠村ニ達ス。村
内ヲ歴ルコト二十丁許。幅三間ヨリ五間ニ至ル。工

八頼朝治世ノ頃開キシ道ト云。東鑑ニ仁治元年十一月晦日鎌倉ト六浦津ノ間始テ道路ニ當ラレ由議定アリテ。明ル二年四月ヨリ道造アリ。又建長二年六月ニモ山内并六浦等ノ道ヲ再ニ造ラレシトアルハ。則此道ノコトナルベシ。猶郡ノ惣説郷名ノ條ニ詳ナリ。又古海道トテ西ヨリニ僅ノ道アリ。是モ洲崎村ヨリ入。村内金龍院ノ下ヨリ小名渡場ト云處マテヲ船ニテ渡リ。ソレヨリ西へ五六丁過。小名大道川ニ艘等ノ地ニツ股トナリシ處ヲ歴テ。相模國ニ達ス。是朝比奈切通シヲ開カザル前ノ道

トイヘリ。又中古ハ東ノ方ヨリ今ノ海邊ヲ通ジ。光傳寺ノ前ニカ、リ。諏訪社ノ東ヲ南ニ往キ。相州滑川ニ達ヒシトモ云リ。

高札場 社家分ノ高札ハ小名六浦ニアリ。寺分ハ小名大道ニアリ。平分ハ小名川ト云處ニ立。

小名 六浦 社家分寺分平分入會ノ地ナリ。是

六浦郷ノ由テ起ル處ナルベシ。引越 東北ノ方社家分ニアリ。鎌倉物語

永享十年十一月源持氏滅亡ノ時。海

老名尾張入道六浦引越ノ道場ニテ自
害ストアルハ。則當所ノコトニシテ。永
享ノ頃既ニ唱ヘシ地名ナルコト知ヘ
シ。但道場ト云ハ何レノ寺院ナリヤ。未
考ル所ナシ。今引越ノ内ニ金龍院泥牛
菴ノ二箇寺アリ。何レモ永享以前ノ起
立ナレハ。此寺ハ皆始ヨリ禪刹ナレハ
其所トモ思ハレズ。
瀬戸 同シ方ニアリ。
瀬崎 是モ社家分ニテ。東南ノ間ニアリ。

鎌倉圓覺寺塔中。黄梅院ニ藏スル。應永
三十五年ノ文書ニ。武藏國六浦郷瀬崎
勝福寺云々トアレハ。此小名モ舊ク唱
ハシコト知レベシ。勝福寺ハ後廢セシ
トミエテ。今コノ邊ニ聞ヘズ。
大道 西ノ方寺分ニアリ。寺前村稱名寺
所藏應永々享等ノ文書ニ。六浦庄大道
關事云々トアリ。コレ當所ニ關ラ居テ
其関錢ヲ以テ彼寺ニ寄附セシナルベ
シ。文書ノ全文稱名寺ノ條ニ出ス。並見

ルベシ。

川、平分ノ内ナリ。西ニヨリ。

三艘、南ノ方ナリ。往古唐船三艘来泊セ

ルヨリ。斯名付トイハリ。其時載セ来リ

シトテ。一切經青磁ノ花瓶香爐等今ニ

稱名寺ニアリ。名所和歌物語ニ。越後守

實時ヨリ頭時貞顯マデ。父子三代ノ間

相續キテ。唐船三度爰ニ着岸セシコト

見エタリ。今ニ當所ノ猫ハ當時舶来猫

ノ子胤ナリトテ。土地ニテモ金澤猫ト

呼テ珍重ス。自餘古昔舶来ノ猫ハ背ヲ

撫レハ從テ脊ヲ低伏ス。金澤ノ種ハ撫

ルホト脊ヲ擡ルヲ異トスト云。

室ノ木、東寄ナリ。此ニ所モ平分ニ属ス。

荒井、金龍院ノ傍ニアリ。

渡場、引越ノ南ノ濱邊ナリ。房総二州ヨ

リ来ル船、直ニ此所ニ着岸セシト云。

山川

四望亭、小名室木ニアリ。亭トハ稱スレト。亭舎ノ

義ニハ。アラス。尋常ノ高山ナリ。山頂嵩高ニシテ。



四望亭眺望圖



登臨スレハ。四方トモイサ、カモサ、ユヘキ
エノナクシテ。甚佳景ナリ。西ハ郡中ノ山々ヲ始
メトシテ。遠クハ富嶽ヲ眺ミ。北モ郡中ノ山ヲコ
ヘテ。江戸ノカタヲ見ワタシ。東ハ房、総ニイタリ。
南ハ相州ノ羣山、甚キタルガゴトク。又眼下ニ野
島浦オヨビ金澤ノ八景ヲ一望ノウチニ聚ノ。モ
ツトモ絶勝ノ地ナリ。此ニ圖セル処ハ其東南ノ
方ナリ。
林
地頭林ナリ。字カクヲニアリ。二段許ノ松林ナ
リ。

矢倉 村内所々ニアリ。山ノ中腹ニ築タル横穴ノ
名ナリ。大ナルハ穴中廣サ二十坪餘。或ハ入口ニ
門柱ヲ立シ跡アルモユ。
海 東ノ方ニアリ。入海ナリ。
待從川 水元西ノ方相州峠村ヨリ出。朝比奈切通
邊ノ清水落合テ東流ノ川トナリ。村内ニテ入海
ニ合ス。川幅四五間。名義詳ナラス。鎮倉志云。俗ニ
傳フ照天姫カ乳母待從ト云女。身ヲ投タル川ナ
リト。イトウケガタキ説ナリ。
六浦川 潮入ノ小堀ナリ。六浦ノ内ニアリ。コノ川

架ヒル橋ヲ六浦橋ト呼フ。

室木浦 東南ノ方ニ傍テアリ。

鹽濱 六浦ヨリ三艘マテノ海濱ニアリ。當所ノ鹽

ハ鏡釜ニテ煮ルエヘ他ノ殊ニ白キモノニハ似

不。下品ナリ。

水利

油堤 六浦橋ノ南。千光寺ノ前ナル堤ヲ云。鎌倉志

云。照天姫ノ乳母待従ト云モ。ノ。姫ガ粧具ヲ持。此

堤マテ尋来リ。其行方知レザレ事ヲカトシ。此

所ニ捨置テ身ヲ投タルトナリ。

郡署

米倉丹後守陣屋 小名六浦引越ノ両所ニカレ

リ。昔コ、ニ能仁寺泥牛庵慶藏院ナト云アリシ

ヲ。元禄九年米倉丹後守昌尹此邊ヲ領地ニ賜ヒ

シ時。彼菴ヲ金龍院ノ前ニ移シ。慶藏院トイヘル

修驗ハ相模國ニ移ヒシ由。則今同國ニ浦郡浦郷

村ニ修驗慶藏院アリコレナリ。ソレ等ノ蹟ニ陣

屋ヲ構フト云。能仁寺ハ廢地トナリシ由。年代ハ

傳ヘテ失ヘリ。鎌倉志ニ能仁寺舊蹟ヲノス。又陣

屋ノ前街道ニ横レレ一間計ノ小溝アリ。ソコニ

祭ヒルワツカナル板橋アリ。ケガツイン橋ト云。
 昔爰ニ修験ケサウイントイハルアリシヨリノ
 名ナリト。コレ前ニ云慶藏院ト同院ナルベケレ
 ト。ケイケト唱ノ似タルニ由テ訛リシナラン。此
 陣屋ノ内ニ八幡社アリ。鎌倉八幡ヲ勧請スト云。
 神社
 瀬戸明神社
社地社内領
 小名瀬戸ニアリ。鎌倉海
 道ノ北側ニテ。江戸ノ方ヨリ。瀬戸橋ヲ越テ右ニ
 アリ。本社ニ間半ニ三間。幣殿三間ニ九尺。拜殿三
 間ニ二間南向。前ニ石ノ鳥居アリ。五十一位大山積

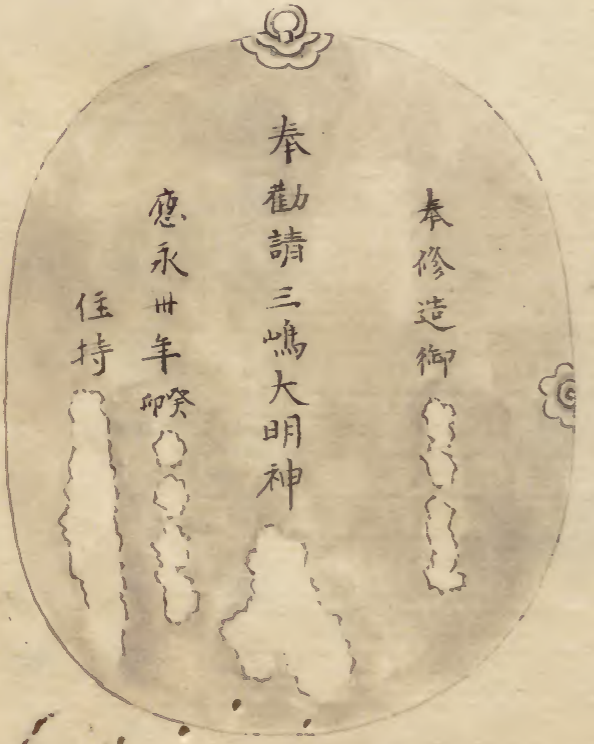
神宮ノ八字ヲ扁ス。裏面ニ延慶四年四月二十六
 日戊辰沙弥寂丑ト記ス。神躰幣束ノミニテ。前立
 ニ東帯ノ座像ヲ置。社傳ニ治養四年四月八日。將
 軍頼朝豆州三島明神ヲ勧請ストイヘリ。サレド
 東鑑ニ據ニ。頼朝鎌倉ニ入りシハ。治養四年十月
 六日ノ事ニテ。四月ノ頃ハ未ダ豆州北條ノ館ニ
 アリシ時ナレハ。當社ヲ勧請スベキ由ナシ。或云
 年月ハ詳ナラザレド。頼朝豆州三島ノ神ヲ一社
 勧請セントテ。神名ヲ札ニ録シテ海中ニ投シ。其
 流着ノ地ニ鎮座セント祈誓ナリシガ。當所へ看

岸シタリシユヘソノマ、造^スト。又鏡倉志
或人ノ説トシテ。往古此神此地へ飛來リ給フ。今
ノ金龍院ノ飛石ノ上ニ止レト云。例祭毎年四月
十一月中ノ酉日。神樂ヲ琵琶島ノ辨、天社ニテ渡
シ。神主衣冠ニテ供奉ス。鏡倉年中行事ニ云。正月
二十九日雪下今宮へ御參詣アリテ。直ニ瀬戸ノ
三島大明神へ御社參。又云。四月朔御祝如例。三島
御精進タル間。合火以下可有斟酌方ハ不被致出
仕。御一家一人為御代官別テ有精進。同八日瀬戸
三島大明神臨時ノ祭禮。公方様御社參。御饗束供

奉ノ様躰前ニ如記。社家奉行被奉。御酒數十獻被
申。船寄ノ辨財天神前ニテ御酒有。中ノ酉ニハ御
一家ノ御代官ハ瀬戸へ參詣。有下向被奉ハ聽テ
御精進過也云云。是等ニ據テモ足利家ニテ尊敬
淺カラザリシ事。及古ヨリ社頭ノ莊嚴ナリシモ
推テ知ラル。又僧万里カ當社亭壁ニ題セル詩ナ
リトテ。世ニ單行スルモノアリ。梅花無盡藏ヲ闡
スルニ見ユス。然レトモ當時ノ僧家ノ子ニ出ル
コトハ疑モナケレバ。姑クニ載ス。其叙ニ云。禪
右和尚云。瀬戸行宮古最靈。舞浪海風醒。浙江

亭上多疑。似隔岸。越山相對。每歎生晚不及識。禪居師。故游名山。勝槩得見其遺蹟。則雖片言隻字。皆收而寶之。丁未按十長亨元秋九月。予及福鹿兩山諸友。志諸古老若干人。偕登斯亭。拜觀禪師泊諸老倡和之什。想見前朝人物之盛。乃屬同遊者。賡歌以告。後來君子。庶乎繼述厥美云。詩曰。禪居妙倡華通靈。滿壁龍飛霧雨腥。後四十年滄海變。山神猶護舊醴青。小田原北條家ヨリト社領ノ寄附リシヤ。小田原役帳ニ六浦社領八十五貫九百五十八文六浦ニ伏。神主拘トニ又天正十九年十一

月 御朱印ノ文ニ六浦郷ノ内百石先規ノ如ク御寄附ノ由記ニ給ヘリ。社内ニ棟札ト才ホシキエノアリ。圖左ノ如シ。

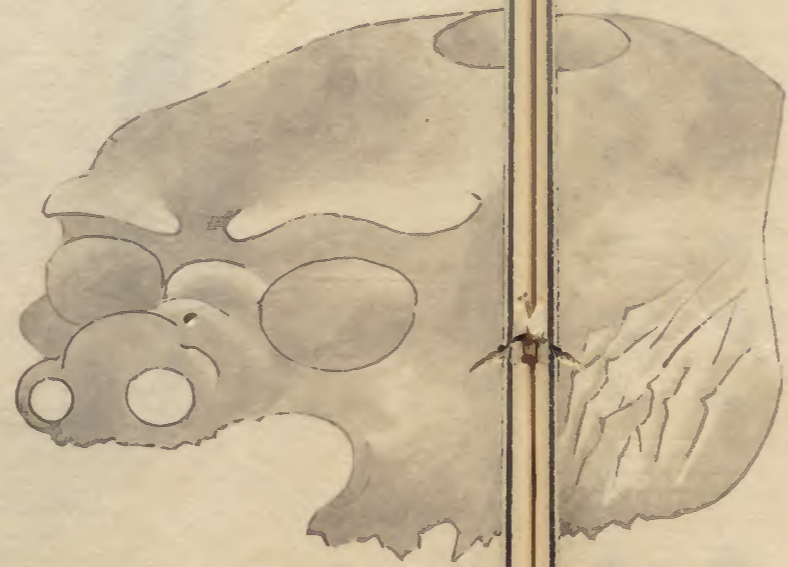


寶物

獅子頭

賴朝當社創立ノ時。寄納アリシ云ノト云。所
所損失シテ最古色ニ見ユ。圖九ノ如シ。

一箇

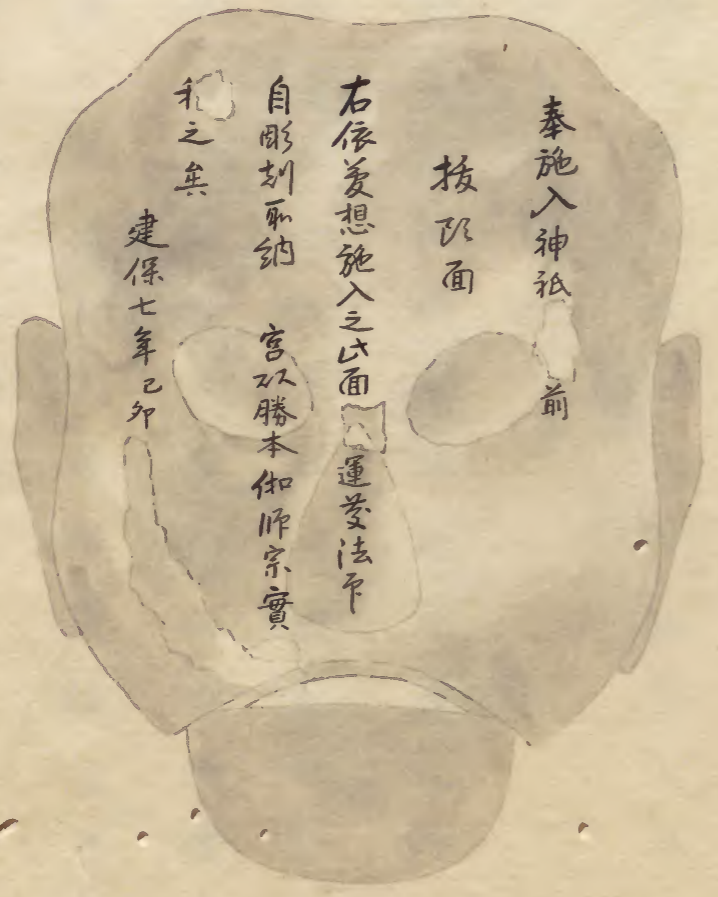
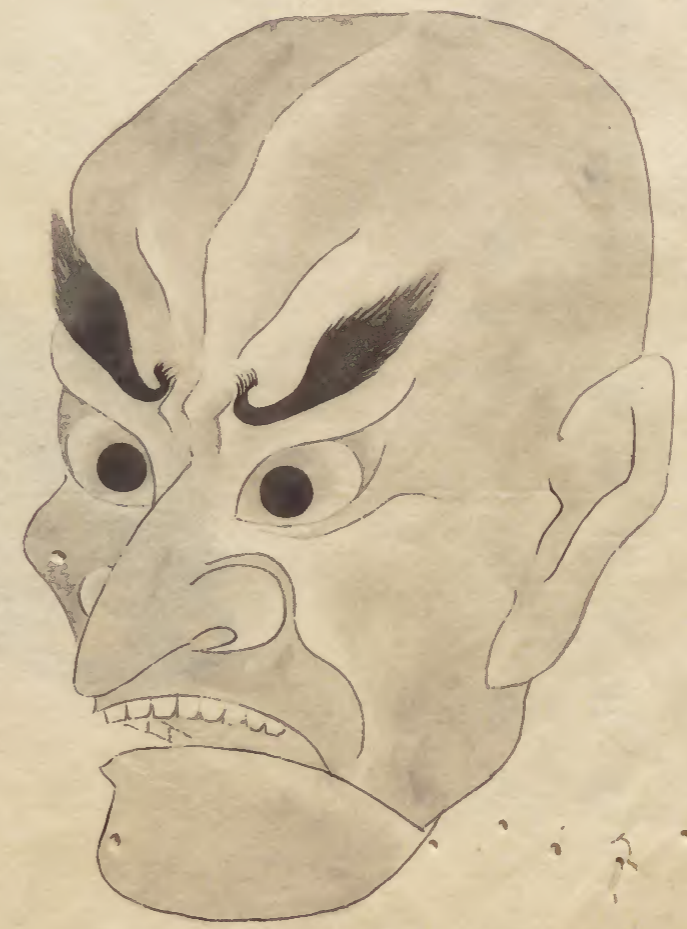


抜頭面

り。惣朱漆ニテ。表ハ黒漆ニ朱ヲ以テ銘ヲ記セ

一枚

裏圖



奉施入神祇 前

按以面

右依夢想施入之以面 蓮受法平

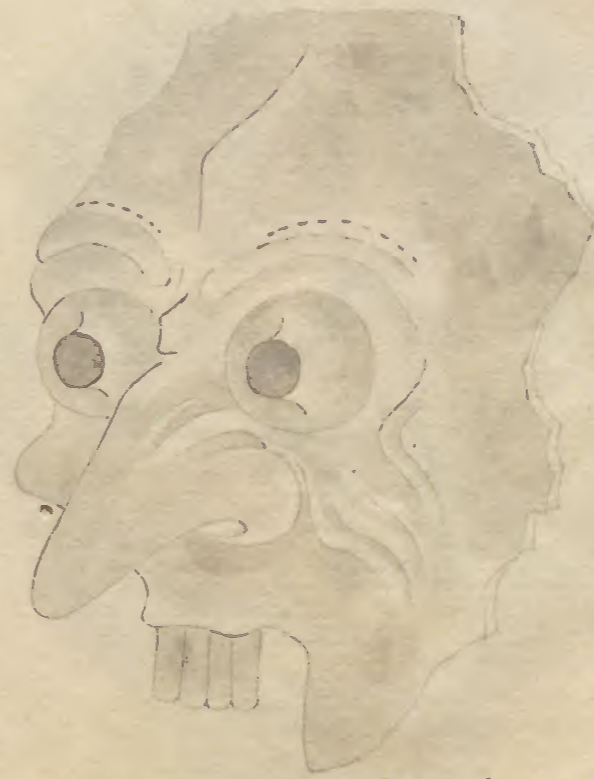
自彫刻取納 宮以勝本知作宗實

和之矣

建保七年己卯

陵玉面。

一枚



紺紙金泥心經

一卷

筆者詳ナラス。

鐘樓

本社ニ向テ右ニアリ。銘左ノ如シ。

瀬戸三島社鐘銘

洪鐘新製。寄器海塢。靈神振德。衆人結縁。韻徹遠
近。鎔體黃玄。緇素益大。村里聽鮮。開靜動閑。奏敬
悲田。驟化世俗。頻敲夜禪。覺煩惑夢。驚生死眠。昏
曉清響。劫々永傳。大成喜提薩。垂僧普川華。應安
七年四月十五日奉鑄之。

神玉平胤義。檀那沙弥釋阿。共十方四衆等。勸進

聖義道。大工大和權守國盛。

藥師堂 同邊ニアリ。二間四方。木尊藥師ニ立身

ニテ長三尺許。土人ホウカ僧ノ藥師ト呼フ。由

來詳ナラス。古當所ニテ放下僧後、雖セシコト

アリ。コノ因ニテ稱スルニヤ。復雖ノコトハ下

ニ載ス三木杉ノ條ニ出セリ。

末社

稻荷社ニ字 本社ノ後。赤壁ノ中腹ニ穴アリテ。

其中ニ造立ス。

蛇混柏 本社ノ東ニアリ。是古世ノ神木ニテ。金

澤八木ト稱セル其一ナリト云。屈蟠延亘セル

サニ。蛇ノ口タカマリシ如クナレバ。蛇混柏ト

イヘリ。相傳テ將軍頼朝當社草創ノ時。植ラレ

シモノト云ヘト。イカ、アラン。僧万里ガ詩ニ。

遺廟松圍六浦橋。朗吟繫馬石支腰。歸鴉飛破翠

屏面。剝被風聲添晚潮。自注ニ云。六浦廟前有古

柏屈盤ト。是文明年中ノ作ニシテ。已ニ古柏ト

稱スレバ。古樹ナルコト論ナシ。ソノ後何ノ頃

ヨリカ立枯トナリシヲ。延寶八年八月六日大

風ノ為ニ轉倒セシ故。其マ、注連ヲ引廻シ。

今尚存在ス。此柏數百歳ノ星霜ヲ歴シ故ニ
香氣馥郁タルコト。宛モ伽羅ニヒクシ。延寶八
年轉倒ヒシ時。剪取シ枝モテ社内左右ノ板羽
目トナヒルモノ。猶香氣盛ナリ。問ハズシテ彼
材ナルヲ知ラル。板ハ堅楛ニシテ潤澤ナルコ
ト紫檀ニ類セリ。
三本杉 蛇混柏ノ南ニアリ。是モ古樹ナリ。三株
比生シテ一株ノ如シ。鎌倉志ニ是放下僧カ雖
ヲ復ヒシ所ナリト云。謡曲ニモ瀬戸ノ三島ト
載タリ。此三本杉モ延寶八年風雨ノ為ニ倒レ

シトイヘリ。按ニ那須拾遺記ニ。中昔ノコトナ
リシ。下野國那須郡森田ノ住人。牧野左衛門勝
重ト云モノ。上野國伊香保ノ温湯ニ浴ヒシニ。
相模國ノ住人カ稱大膳信俊ト云モノト。諍論
ヲナシ。斂撃ニ及ヒテ信俊ウケマケ。一旦其所
ヲ公シカト。遂ニ勝重ヲ殺害セリ。勝重ニ男子
二人アリ。兄ヲ次郎丸ト云。弟ヲ小次郎ト呼ブ。
此兄弟父ノ仇ヲ討レタノ。武藏國ニ立越身ヲ
ヤツシテ兄ハ行脚ノ姿トナリ。弟ガ放下僧ト
ナリテ。同國瀬戸ノ三島ニテ信俊ヲ討取レタ

ヲ載ケリ。

神主千葉司胤香 神祇伯白川家ノ配下ナリ。古
クヨリ唯一神道ナリトイヘド。金澤稱名寺ニ
藏スル源持氏ノ文書ニ。瀬戸社頭ニ於テ彼寺
僧本地護摩ヲ修セシ由ヲ載ヒ。又社内ニ藏ス
ル棟札ニモ。住持ト記シ。且境内鐘銘僧普川ナ
ト彫リ。又六浦嶺松寺ハ司ノ先祖豊前某カ開
基ナト傳フル類。古クハ唯一ニアラサルシコ
トシラル。今モ社地ニ藥師堂アリ。
下社家佐野掃部柀田古京

八乙女杉尾植草

辨財天社 瀬戸社ノ前海中ニ一丁餘出タル嶼ナ
リ。ソノ形琵琶ニ似タリ。中央ニ社建リ。瀬戸辨財
トモ琵琶島辨財トモ稱ス。嶼中ニ至ル道ニ橋ニ
ヲ架ス。其道ノ左右ハ混柏ノ並木ナリ。此柏モ延
寶八年風雨ノ後枯シトテ今ハ幹ノミ残りタレ
ト。木理堅緻ニシテ一枝モ朽シモノナシ。相傳フ
當社ハ頼朝ノ御臺平政子竹生島辨財天ヲ馬シ
テコトニ勸請ス。柏ノ並木モ其時植サレシ
モノト云。小社ニシテ東ニ向フ。鳥居ハ並木ノ所

ニタテリ。瀬戸橋ノ方ヨリ琵琶島ニ行道ノ傍ニ

福石ト云石アリ。金澤四石ノ一ナリ。

社寶

寶珠石

三顆

第六天社 地年貢 小名三艘ノ山上ニアリ。小社。東

向。鳥居ニ基ヲ立。寶樹院持。

熊野社 地年貢 小名室木ニアリ。一丈ニ一丈、五尺

ノ社ニテ西北ニ向。社地入口ニ石鳥居ヲ立石燈

籠アリ。例祭九月十一日。善應寺持。此社地ハ元石

山ヲ剪開キシモノトニユレド。巖石ノサマイト

古色ニシテ後世ノ鎮座トハオモハレズ。紀州熊

野カンノ倉ト云所ヲ寫ヒシナリト土人云傳フ。

稻荷社 地年貢 同所ニアリ。小社ナリ。以下数字イ

ツレモ小社ナリ。西向。前ニ木ノ鳥居アリ。村民持。

此所ニ室木ト稱ヒル枯樹アリ。朽壞テ今ナシ

木タルヲ知ラス。是室木ノ地名ノ由テ起ル處ナ

リト云ヘバ。故アル木ト見エタリ。又此木ノ後ニ

玉楠ト云大木及榎ノ古木ナリ。

太神宮 地年貢 小名六浦ニアリ。村民持。社。東向。

下同ニ。前ニ木ノ鳥居ヲ立。例祭六月十六日。

日光権現社。地年貢。小名川ニアリ。前ニ木鳥居ヲ

立。村民持。例祭九月十九日。

諏訪社。地年貢。同所山ノ中腹ニアリ。木鳥居ヲ立。

春日社。地年貢。小名六浦ヲ西南ノ方ニアリ。南向。

村民持

天王社。地年貢。是モ六浦ニアリ。

稻荷社。地年貢。同邊ニアリ。此ニ社上行寺持。

第六天社。地年貢。室木ノ内山上ニアリ。小社。善應

寺持。

秋葉社。地年貢。小名三艘ニアリ。村民持。下同。

淺間社。地年貢。同所ニアリ。

稻荷社。地年貢。小名大道ニ下リ。長島稻荷ト號ス。

山上社。地年貢。同所ニアリ。此傍ナル窟中ニ弘法

大師加持セシト云清水アリ。

圓通寺。地年貢。小名瀬戸ニアリ。天台宗。淺草東

光院末。日輪山ト號ス。容殿東向。本尊觀音ヲ安ス。

開山僧高榮。寛文二年二月二十六日寂ス。

東照宮。容殿ニ向テ西ニアリ。二間。二湖半ノ

御宮ニテ。三間半ニ二間ノ拜殿ヲ立。此地ハ

石山ナリシヲ。万治年中八木次郎右衛門當所ノ御代官タリシトキ。切關キテ造營ニ奉リシ故。御宮ノ後ハ今モ三丈許ノ巖石ナリ。其頃御供料十七石餘ヲ寄附シ奉ルト云。又久世大和守廣之モ御供料ノ地ヲ奉納セリト。コハ寛文二年二月金澤領本牧領ノ内五十石ノ御加恩アリシ故。其頃寄附シ奉レルナリ。

金龍院 二境内除地 小名引越ニアリ。臨濟宗。相州鎌倉建長寺末。昇天山ト號ス。相傳フ往古當寺ニ於テ硯ノ中ヨリ龍昇天ヒシ故越レル名ナリト。

橋樹郡小机雲松院ニテモカク如キ傳アリ。モツトモ疑フヘシ。一ニ飛石山トモ云。本堂五間ニ七間。西向。本尊ニ觀音。坐像長ニ尺許。開山僧方崖元圭。永徳三年九月十六日寂ス。

飛石 本堂ノ後背小高キ所ニアリ。形ヲ鳶ニ似タルヨリ鳶石ト稱ス。飛石ノ字ヲ用エルハ誤ナリト云。此石文化中ノ地震ニ轉倒シテ元ノ形狀ハ闕損シテ失ヘリ。前ニ鳥居ヲ建。又瀬戸明神此石ノ上ニ飛來リシト云話アリルヨシ。鎧倉志ニ見ユ。

九覽亭。本堂ノ後ノ丘上ナリ。亭ハアラス。中腹ニ僅ノ四阿ヲ設ク。丘上ヨリ金澤八景ハ外區ノ眺望ト相似タルヲ以テ其圖ヲ畧ス。得タリト云。最絶勝ナレド前ニ出セル四望亭ノ眺望ト相似タルヲ以テ其圖ヲ畧ス。

上行寺

地内除

小名六浦ニアリ。法華宗。下総國

中山法華經寺末。六浦山ト號ス。本堂七間半ニ六間餘。南向。本尊三寶ヲ安ス。開山日祐。應安七年五月示寂ス。日祐ハ千葉宗胤ノ孫。胤貞ノ子ニテ本山法華經寺第三祖ナリ。開基ハ荒井平次郎光吉

ナリ。入道シテ妙法ト稱シ。日祐弟子トナリテ當寺ヲ開基セリ。此妙法ヲ法華經寺ノ記ニハ六浦上人ト載ヒ。身延山ニテハ日荷上人ト稱ストイヘリ。且當所ハ建長六年宗祖日蓮軍木共郎ト船中問答アリシ舊蹟ナリト云傳フ。村内小名引越切通ノ南ノ濱邊ヲ里俗渡場ト唱ヘ。房総ヨリ直ニ此所ニ着岸セシ處ナリトイヘリ。サレド杉田村妙法寺及町屋村安立寺ニテモ各船中問答ノ舊蹟ノ由傳ハタレバ。何レヲ實蹟トスヘキヤ詳ニセズ。又金龍院ノ傍ニ小名荒井ト云地ア

四角ニテ石ニテ置シナリ。徑リ三尺程深サハ凡
 一丈許。底ハ岩ニテタトヘハ摺鉢ノ形ノ如シ。ソ
 ノ傍ニ荒井妙法ト彫付アリ。今ハ苔ムシテ文字
 モ見ユズ。妙法ハ荒井光吉ナルコトハ前ニ見ユ。
 鎌倉志ニ。上行寺堂ノ前ニ六浦妙法ト云添師ノ
 石塔アリ。文和二年六月十三日ト刻ナリ。今ハ此碑
 ナシ。近キ年造リシ中山富木殿荒井平次郎光吉
 入道舊蹟ト記セル碑ヲ立。

寺寶

消息

日蓮上人筆

一幅

大曼荼羅

一幅

日祐上人筆

妙法上人木像

一軀

同遺骨

龍鱗

一枚

日祐上人龍女ヲ得脱ノ時。残ヒシ鱗ナリト
 云。

柄杓盥

一箇

瓜ノ紋ヲ鑄出ス。此餘玉眼一顆ヲ藏ス。コハ
金澤稱名寺山門ニアリシ仁王ノ玉眼ナリ。
彼像ヲ光吉入道譲ヲ得テ身延山ニ納ル時
過テ腕セシモノト云。
日祐上人讓狀
一通

應安六年甲月八日。日祐ノ記セシモノナリ。

祖師堂 本堂ノ西ノ方ニアリ。三間ニ三間半。祖

師ハ二尺餘ノ聖像ナリ。中老僧日法及本寺開

基日常二人ノ作ニテ。日蓮三十三歳ノ時舟中

問答ノ姿ヲ摸セシ像ナリト云傳フ。

三十番神堂 本堂ニ向テ九ノ坊ナリ。岩山ノ崖

ノ穴中ニ立。前ニ鳥居アリ。

山王社 東ノ山上ニアリ。

鐘樓 門ヲ入テ右ニアリ。鐘銘ナシ。

吉田兼好寓居蹟 境内東ノ山上ナリ。兼好五六

年ノ程コ、ニ住セシト云。兼好法師行狀ニ云。

武藏國金澤ト云所ニコモリ居テケリ。明クレ

夕、都ノ空ノミ戀シクテアリシコトナト。夢

ニ見テウケ驚カレタルニ。カタリ合スベキ人

シナケレバナク。

サノスレトカタルトモナキ曉ノ夢ノナ
タニ袖ソヌレツ。又家集ニムサシノ國カ子
澤ト云所ニムカシスニシニ。家ノイタフアレ
タルニトマリテ。月アカキ夜。
故郷ノアサチカ庭ノ露ノ上ニトユハ草葉
ト宿レ月影。ナトアルハ當所ニテヨメルナル
ベシ。徒然草ニ。甲香ハホラ貝ノヤウナルガチ
イサクテ。口ノホドノホソナガニシテ出タル
貝ノフタナリ。武藏國金澤トイフ浦ニアリシ
ヲ。所ノ者ハヘナダリト申侍ルトゾイヒシト

アルニ此所寓居ノ時ノユトナラン。甲香ハ海
螺ノ厭ニテ製シテ焼物ニ和スルモノナリ。野
槌ニ云。一本バヘトアリ。バイヲ云ニヤ。覺束ナ
シ。今金澤ニテ尋レバ。バイト云。又ツブトモ云
ナリ。兼好カ時ニハヘナダリト云ケルニヤ。バ
イニ似テ少シ大ニシテ。口ノホソナガキ貝ア
リ。ソレヲヘナダリト云カトアリ。一説ニヘナ
ダリハ都ニテヨナキ共。ナガニシトモ云トイ
ヘド。ヨナキナガニシナト呼モノバ。蓼螺ナル
ヨシ。小野蘭山イヘリ。今此邊ノ土人バイニ似

テ細長キ貝ヲ拾ヒ。ヘナタリトテ販クモノアリ。

嶺松寺

境内瀬戸明神領内

小名六浦ニアリ。禪宗臨濟派。

鐘倉建長寺末。金剛山ト號ス。本堂三間四方。本尊

正觀音坐像。長一尺許。此邊札所第十三番ナリ。瀬

戸明神ノ神職千葉司ノ先祖豊前某カ開基ト云。

開山ハ詳ナラス。或云僧月窓元暁ナリト。此僧ハ

貞治元年十月二日寂ス。

長生寺

境内除地ニ畝

當寺モ六浦ニアリ。浄土真宗。京

都西本願寺末。壽樂山ト號ス。本堂三間半ニ四間。

東向。本尊弥陀ノ立像ヲ安ス。相傳古ハ壽樂寺ト

號シ真言宗ナリシガ。蓮如上人安房國ヨリ相模

國三浦ニ往來ヒシ時。其船ヲ擱取洲崎村ノ民由

右衛門カス。メニヨリ。當寺ノ住僧頼乘蓮如ニ

マミエテ感悟スルコトアリテ則改宗シ。蓮如ノ

弟子トナリ。寺號モ今ノ如ク改シト云。サレド蓮

如ハ明應八年ニ寂シ。頼乘ハ天正三年八月十

六日寂ストイハバ年代違フニ似タリ。

千光寺

境内八畝

小名川ニアリ。浄土宗。町屋村天

然寺末。日光山ト號ス。本堂四間半四方。東向。本尊

十手觀音。照天姫ノ身替佛ト云。秘佛ナリ。前立ノ
像立身長六尺許。照天姫ノコトハ泥龜新田イフ
シ鳴ノ條ニ記ス。
善照寺 地境三畝除 同所ニアリ。法華宗。村内上行寺
末。海中山ト號ス。本堂五間ニ四間。北向。本尊三寶
ヲ安置ス。開山日得。天正六年寂ス。
光傳寺 地境四畝除 同所ナリ。淨土宗。鎌倉光明寺末。
常見山無量院ト號ス。本堂六間四方。南向。本尊彌
陀ヲ安ス。開山得蓮社忍譽空公靈傳。文祿四年七
月二十四日寂ス。開基ハ當村ノ氏。長野ヲ氏トセ

ル六右衛門ノ先祖ナリ。當寺ニ伽羅ニテ彫刺セ
ル長六寸許ノ辨財天宇賀神ノ像アリ。共ニ蛇形
ニテ二躰相マトヘル像ナリ。故ニ土人西頭ノ辨
天ト稱ス。コハ近キ年三艘浦ノ氏太郎兵衛ト云
モノ。宅地ヨリ堀出ヒシヲ寄附スト云。
天神社 堂後ノ山ニアリ。小社。此社地ニ畝ハ除
地ナリ。
地藏堂 堂ニ向テ右ニアリ。三間四方。此堂ニモ
三畝ノ除地アリ。
鐘樓 門ヲ入テ右ニアリ。元祿十四年鑄造ノ鐘

ヲ掛ク。

寶樹院 境内年 小名大道ニアリ。古義真言宗洲

寺村龍源寺末。高榮山馬照寺ト號ス。本堂六間半

ニ五間半。東向。本尊大日。長四尺餘。春日作。開山詳

十ヲス。中興ノ僧永叫。万治元年五月十八日寂セ

リ。

常福寺 境内年 同所ニアリ。真言律宗。金澤稱名

寺末。大道山ト號ス。足利持氏ノ祈願所ニテ古ハ

寺分ノ地一圓ニ當寺領ナリシト云。金澤稱名寺

ニ藏スル應永二十九年ノ文書ニ。六浦庄ノ内常

福寺云々トアレバ。古刹ナルコトハ論ナシ。又北

條役帳ニ六浦大道分トアルハ則當寺ノ領セシ

所ヲ云ナルヘシ。後年次第ニ衰廢シテ寺領モ皆

失ヒ。今ハ領主ヨリ阿弥陀免トシテ鹽六才ツ、

ヲ寄附セルノミナリ。本堂三間四方。東向。金澤札

所第十五番ト云。本尊弥陀ヲ安ス。坐身長三尺許。

行基作。脇士觀音勢至共ニ長三尺許。関山審覺。永

和三年八月十五日寂ス。

辨天社 本堂ノ後ニアリ。小社。

大寧寺 境内除 小名瀬ヶ崎ニアリ。禪宗臨濟派。

鎮倉建長寺末。古ハ藥師寺ト號シ。真言宗ナリシ。
何ノ頃カ改宗セリト云。海藏山ト號ス。本堂三
湖四方。北向。本尊藥師。立身長五尺許。ヘソ藥師ト
云。十神。共ニ運慶作。鎮倉志ニ。當寺勸進帳ヲ引
テ云。昔

代見帝永仁年中。此村ニ食女アリ。父母ノ忌日ニ
アタレドモ。家食フシテ佛ニ供養スヘキヤ。ウナ
シ。常ニ絲ヲクリヘソトシテ。是ヲウリテ父母忌
日ノ佛餉ニ備ヘントオモフ。然レドモ夕マスキ
買入ナシ。或時童子一人來テコレヲ買フ。其價ヲ

以テ父母忌日ノ供養ヲ勤ム。不思議ノオモヒヲ
ナヒシ所ニ。此藥師ノ前ニ其ヘソ多クアリ。始テ
知ヌ如來食女純孝ノ志ヲ感シテ然ルコトヲ。シ
カリシヨリ以來ヘソ藥師ト云ト。關山ハ千光國
師ナリ。元亨釋書云。國師名ハ榮西。明菴ト號ス。備
ノ中州ノ人。其先賀陽氏。薩州刺史貞政ノ曾孫ナ
リ。永治元年四月二十日生レ。建保元年七月五日
寂云々。開基ハ三河守源範賴ニテ。鎮倉志。範賴。善
大寧寺殿道悟大禪定門ト法謚ス。相傳フ建久四年
年浦冠者範賴伊豆國修善寺ニ於テ打死ト稱シ。

ヒソカニ。遁レテ相州浦郷村ニ蟄居セシガ。イツ
マテ斯テアルベキニモアラズ。北向ノ寺ニ行
自殺セントテ農民平次左衛門及今一人某ニ命
シテ乗リ。當寺ニ至リテ終ニ生害ニ及ヘリ。
其時彼ニ入ニ苗字ヲ唱ス。與ヘシ由今モ浦郷村
ニ其子孫アリト云ノ。此説アヘテ信スヘキニ
アラサレド。姑ク傳ノマ、ヲ載ス。猶下ニ載スル
範頼墓ノ條并セ見ルベシ。

寺寶

三河守範頼畫像

一幅

末帝ノ像ニテ遊素齋ト云者ノ筆ナリ。讀アリ。其文左ニ載ス。

三河守範頼公。建久四年八月。故有テ武州
六浦庄金澤瀬ヶ崎海藏山大寧寺ニテウ
ヒタマヒス。名ノミ残りテ。皆人悲ニ今ニ
絶ル事トシ。爰ニ杉若氏景秀道ニ心ヨヒ
シ人ナレバ。此寺ニ詣來テフリニ蹟ヲ
尋子侍ルニ墳墓ハ苔ニワツモレテ。其所
トモ見えス。彌涙ヲ催シ思ヒ捨カタクテ
畫像ヲ納メ奉ルトテ。予ニ發句ヲ請ハベ

リ又。誠ニ哀レノテ、愚ナル志ヲ起シ。尊
靈ノ手向卓トナラサラメカモ。
遠キ世ニ殘ル御影ヲ秋ノ月

玄祥法橋

此ニ是ニヨレバ。此像ハ杉岩景秀ナレモノ
ノ納メシナリ。此遊素齋トイヘルハ則景秀
カ事ニヤ。又別人ナリヤ詳ナラス。

和歌

一軸

古人ノ和歌ヲ。範頼ノ書セシモノナリ。

長刀

一振

範頼ノ所持ナリ。無銘ニテ直焼及ナリ。長一
尺四寸。黒漆塗ノ箱ニ納ム。ソノ蓋ノ銘ニ。

親頼嘗祇役東都。其歸也過相瀨崎。詣大寧
寺。此所葬吾大祖範頼之地也。曰謁範頼神
位。暨畫像。而歷年悠久矣。裝飾頗壞。深患之。
而中途匆匆不遑脩焉。今茲文化庚午之夏。
遣家人黒田頼久脩之。遂其志焉。範頼二十
一世之嫡子。吉見就親。爲長門侯准公族稱
毛利親頼。其七世之孫也。聊追遠致才。東
記其事爾。長門毛利親頼謹識

長刀圖



御幣杉 本堂ノ後ノ山ニアリ。高三丈餘。中ホドヨリ次第ニ枯葉ノ如クナリ。白色ヲ帯ヒ遠ク眺メハ御幣ノ如クニエ。ヨリテ名付ト云。此杉ノ前ニ太神宮ノ小宮アリ。

範頼墳 山ノ中腹ニアリ。高三尺許ノ五輪ノ石塔立リ。文字ヒアリシナラン。年ヲ歴テミユス。前ニ云如ク範頼當所ニテ自害スト云ハ固ヨリ信ハカラス。異本盛衰記ニ攄ニ。範頼伊豆國修善寺ニアリケルヲ。梶原景時父子五百餘騎ニテ押寄ケレバ。範頼ミツカラ矢ヲ發テ防

戦シ。終ニ坊ニ火ヲ放テ自害ス。景時範頼ノ焼
首ヲ取テ鎌倉ニ歸リ。頼朝ニ獻ヒシト見ユ。且
修善寺ニ其墓アレバ遺骨ヲ葬リシハ彼寺ナ
ルコト論ナシ。但首ヲ鎌倉ニテ實檢ノ後當寺
ニ送リ葬リシニヤ。又範頼ニ因ミアルヒノ逸
拜ノ為ニ建シモシルベカラス。足立郡石戸宿
村ニモ範頼ノ墓アリ。
泥牛卷 除地 小名引越ニアリ。臨濟宗鎌倉圓覺
寺末。吼月山ト號ス。六間半ニ七間ノ庵ナリ。巽向。
本尊正觀音。立像。長ニ尺許。行基作。コ、モ札所ノ

一ナリ。開山ハ圓覺寺第十七世。南山士雲和尚ナ
リ。建武二年十一月七日寂。當庵古ハ能仁寺ト云
寺ノ塔中ニテ。今ノ米倉丹後守ノ陣屋構ノ内ニ
アリシガ。能仁寺ハ既ニ廢寺トナリ。當庵ハ陣屋
取立ノ時コ、ニ移サレシト云。能仁寺ノ事ハ陣
屋ノ條下ニ附記ス。
翠積卷 地 羊貞 小名瀬ヶ崎ノ内山腹ニアリ。江戸
麻布天真寺ノ隱居所ナリ。當所ノ山ヲ富士見山
ト云。北ニ入海アリテ爰モ風景佳ナリ。庭中ニシ
ヤボント呼ブ木アリ。其實ジヤガタラ窓柵ニ似

テ最大ナリ。周圍尺餘ノモノアリ。三四月ノ頃花
咲霜後ニ至テ實熟ス。此實ノ皮ヲ干、固ノ器物ニ
製スヘシト云。是未燻ナルヘシ。未燻ヲザホント
云ヘハ是ヲ誤リテジヤホント呼ルナラン。
文殊堂 除地 小名三艘ニアリ。三間ニ二間半ノ
堂ナリ。文殊ハ坐身長一尺八寸許。古ハ唐船舶來
ノ時渡リタル像ト云。相州三浦郡浦郷村良心寺
持。

觀音堂

地年賣、小名室木ニアリ。四間ニ三間半。室
木庵ト號ス。觀音ハ一尺三寸許ノ立身ニテ。此邊

札所ノ九番ナリ。堂中ニ弥陀ノ像アリ。大寧寺持。

堂後ニ枯樹一株アリ。老木ト見ユ。

地藏堂

除地 小名六浦ニアリ。三間四方ノ堂ニ
テ。地藏ハ二尺許ノ坐像ナリ。泥牛庵持。

玉世姬墓 堂ニ向テ左ノ山腹ニアリ。五輪塔ナ

リ。苔フリテ文字ハ有トモ知レズ。由來ヲ詳ニ
セス。側ニ墓印ノ松アリ。此塔ニ手ヲ觸レハ必

瘡ヲ病リトテ近ツクモノナシ。

洲崎村

洲崎村ハ。郡ノ南ニアリ。庄名江戸ヨリノ行程前村
ニ同シ。戸數百八軒。東ハ町屋村。西ハ入海ヲ隔テ社
家分村。南ニ入海ニシテ。コノ邊堤アリ。對岸ハ平分
村。北ハ町屋寺前ノニ村ナリ。四方ニ丁程。土地平カ
ニ砂地ナリ。用水ハ谷々ノ清水ヲ引。多クハ天水ヲ
仰キリ。サレト陰田ニ比スレバ。水田ハ多ク。旱損ア
レド。タマシ津波ノ患ニ罹レトモアリ。町屋村ヨ
リ當村ニカ。ル道ニ餘アリ。一ハ相州浦賀ヘノ往

来ニテ。小名野島浦ヨリ相州三浦郡横須賀村ニ通
船ス。一ハ鎮倉道ニテ社家分村ニ達ス。コハ鎮倉古
海道ナリト云。土人農業ノ暇ニハ。アサリ或ハ蛤ヤ
ソノモノヲ取り。近郷ニ鬻ク。且ハ糞培ノタスケト
モナヒリ。村ノ南方ナル入海ノ邊堤ノ内ニ塩焼場
アリ。稱名寺ノ傳ヘニヨレバ。コノ地元ハカノ寺ノ
領ニテ。夫ヨリ前ハ金澤氏所領ナルベシト云。御
打入ノ後御料所。及村内龍源寺領交レリ。後倉橋内
匠カ先祖ニ賜ハリ。今モ倉橋内近知行ナリ。
高札場 瀬戸橋ノ東ニアリ。

小名

野島浦 南ノ方ニアリ。土人此所ヲ濱方
ト云。名主ヲモ別ニ定メテ。濱名主ト稱
シ。自ラ別村ノ如クナレド。全ク村内ノ
小名ニシテ。地形廣ク亘リタレバ。其内
ニ東西洲ノ崎等ノ名アリ。土人ノ話ニ
野島浦ノ内民戸百軒ニ滿レバ。必災アリ
リト。鎮倉志ニハ百軒ニ過レバ災アリ。
故ニ百軒島トモ呼ブトイベリ。當所南
ノ方ニ紀州大納言頼宣御ノ塩風呂ノ

舊地アリ。

八面 居村ノ邊ヲ云。

西 瀬戸橋ノ方ヲ云。則村ノ西ナリ。

東 コ✓モ唱ノ如シ。

山川

乙鞆浦 富村ト町屋村ニカ、リテ。金澤原ニ續ケ

リ。

チトセカ浦 入海ニソヒ。瀬戸橋ノ方ヨリ龍源寺

ノ下マデヲ云。

原野

金澤原 東方ナリ。當所ニテハ洲崎原ト云。小名野

島浦ニテハ野島原ト呼。町屋野島入會ノ慶ナリ。

橋梁

瀬戸橋 村ノ西ノ方ニテ。社家分村小名瀬戸ニ通

スル所ノ橋ナリ。通船ノ夕ノ橋ノ杭ヲ夕テズ。中

間ニ土臺ヲ築キ。両方ニ二ツノ橋ヲ架ヒリ。洲崎

橋トモ呼。其ニ長六間幅九尺。修理ハ地頭ニテ司

レリ。古ハ橋一ツニテ。元ヨリ橋杭ヲナサズ。角橋

ナリシト云。相傳フ慶長四年六月十五日。此邊

東照宮 御遊覽アリシオリシモ。彼角橋ヲ 御

曉アリテ。御詠アリシト。土人ノ口碑ニコレ
リ。左ニ載ス。

岩夕、ク波ノヨル、来テ見レハ。月ナヘコタ
ル瀬戸ノ角橋。

神社

第六天社

地年貢 小名八面ニアリ。二間ニ三間南

向。前ニ石ノ鳥居アリ。奉藏院持。

天王旅所

地年貢 龍源寺前湖水ノ傍ナリ。町屋村

牛頭天王ノ旅所ナリ。則當村ノ鎮守ナレ。爰ニ

小社ヲ建ツ。竜源寺ノ持。又其邊ニ同寺持稲荷ノ

小社。及地藏堂アリ。

稲荷社

地年貢 南方小高キ處ニアリ。二間、三間。

善應寺ノ持。

稲荷社

地年貢 東方ナリ。小社持前ニ同ニ。

寺院

龍源寺

當村ト町屋村ノ間。湖水ノ傍ニテ。村内ニ

廟セリ。古義真言宗。京都仁和寺ノ末。檀林所ナリ。

知、足山彌勒院ト號ス。寺領五石ハ村内ニテ賜ヘ

リ。本尊大日。運慶ノ作ナリ。始龍草寺ト稱シ。後今

ノ寺號ニ改ム。開山辨譽寂年ヲ傳ヘス。中興開山

融辨。大永四年八月朔日寂。當寺畧縁起云。知足
山龍源寺者。人王八十代
高倉院御宇。治養年中。鎮倉右大將頼朝伊豆國三
島大明神ヲ崇敬アリテ。武州金澤ノ瀬戸ニ勸請
シ。社頭御造營ノ後。常ニ法味ヲ進メ奉ラシ車ヲ
請テ。伽藍建立ノ淨願ヲ發シテ。文覽上人ト共ニ
志ヲ合テ。文治年中六連ノ山中ニ精舍佛閣ヲ建
立シテ。彌勒菩薩ヲ安置シ。都宰ノ四十九院ヲ十
ソラヘ。四方ニ六八ノ僧坊ヲ構ヘ。淨願寺ト號シ。
數多ノ庄園ヲ寄テ佛像靈寶ヲ納メ給フ。則中將

姫ノ繡繪ノ曼荼羅。大師自彫ノ愛深明玉。是等ノ
中ニ於テ秀逸タリ。堂舎薨ヲ置テ粉壁ノ用ノ光
ヲ移シ。伽藍博敞ニシテ丹柱星ノ林ヲ大ニ禪
觀ノ席ニハ衆僧法衣ノ袖ヲツラ子。說法ノ庭ニ
ハ貴賤肩ヲ摩テ群ヲナス。正嘉年中ニ南都ノ忍
性律師當山ニ往シテ戒ヲ弘メ。弘長二年ニハ東
寺ノ能禪法印以寺ニ於テ。住持辨譽阿闍梨ノ夕
ノニ堂上護摩ヲ修行ス。後文明年中法印融辨住
持ヲシテ印融僧都ノ附屬ニ寄テ。光德寺ヲ兼帶
ヒラレ。然トイハトモ。寺院精舍火災ニカ、リ。殊

更西院ノ寺料時々ノ亂世ニ奪レ。漸残レル庄園
ニ他所ニ度轉シテ。サシモノ勝地既ニ荆棘ノ野
トナリナントヒシニ。明應八年ニ至テ融辨退轉
ヒンコトヲ歎キ痛ニ。本尊ニ祈リテ深ク冥助ヲ
願ハレシカハ。感應顯然トシテ。菅原ノ朝臣中務
丞資方篤信ヲ發シ。辨師ト力ヲ合伽藍ヲ再興セ
ント企ル所ニ。本尊弥勒大士夢中ニ白毫ヨリ金
色ノ光ヲ放チテ。辨師ニ告給ヒシハ。良ニ當テ
彼所ニ移シテ三密ノ法燈ヲ挑ベシト。夢サノテ
其所ヲ伺ハルニ。新燈ノ奇瑞アリ。辨師本尊ノ

教ニ從ヒ此所ニ來リ。二町四方結叟シテ兼帶ノ
二箇寺ヲ一寺トナシ。兩院ノ僧坊ヲ一列トシテ。
後土御門院勅命ヲ蒙リ。知足山龍峯寺ト號シ。廣
澤ノ法水ヲ酌テ佐々目ノ一流ヲ味ヒ。師資相傳
ノ本尊聖教ヲ納メテ。善融法印ニ附屬ス。又融師
享祿五年ニハ東寺寶菩薩院高惠僧正ヲ請シテ
傳法灌頂ヲ受。天文十二年ニハ古尾谷中務少輔
平重長ヲ檀越トシテ洪鐘ヲ鑄改ム。境内ニハ古
木高ク聳ヘ。覺樹ノ粧ヲシメシ。緑ノ竹緑ノ色ヲ
ナシ。此間本堂ノ檀玉太田道灌居士不動明王

テ寄附ス。此間

東照宮御入國ノ初。天正十九年ノ冬、當寺ニ入

御アリテ。寺號ヲ御尋ノ時。奏者龍華寺ヲ誤リテ

龍源寺ト言上ス。

神居聞シノシテ。此ヲリカラ此寺號ヲ以テ執奏

スル。三源氏トイヘル音ノ響アリ。吉兆ノ寺號感

應通ストテ。御感嘆ノアマリ。御修復ノ經營并

ニ御朱印下シ置レテ。是ヨリ改メテ龍源寺ト

名付ハベリヌト云云。按ニ前ニ戴タル縁起中天

文十二年古尾谷云云ト云。後ノ鐘銘ニ拠レハ。コ

レ訛ニテ。天文十年ナルヘシ。又元和以前龍華寺

ヲ改テ今ノ寺號トナリシ傳ヘハイカ、アラン。

正保年間ノモノ龍華寺領小記ニ。鎮倉志ニ龍華

寺トノヒタレハ。コノ後改ノシ寺號ナルベシ。鎮

倉志ニモ當寺ハ太田道灌修覆ヒラル故ニ道灌

ノ位牌アリ。表ニ春苑道灌菴主靈。裏ニ文明十八

丙午七月二十六日ト見ユ。

寺寶

兩足曼荼羅

唐畫ナリ。

二幅

涅槃像

是モ唐畫ナリ。

一幅

十三佛繡像

中將姫製スト云。

一幅

八祖畫像

弘法大師ノ筆トモ。願行ノ筆ナリトモ云。

一幅

不動畫像

弘法大師筆ナリ。表襜ノ裏書ニ太田道灌寄

一幅

進トアリ。寺僧ノ云。

東照宮御覽アリテ修復シタマフ。其時十三

佛ノ繡像モ。修復シタマフトナリ。

愛染明玉木像

一軀

弘法五指量ノ作ト云。口ハ木像ノ長。大師一

握ノ長サニ限レルヲ云トナリ。

鳳凰頭

二箇

運慶作。

龍頭

十箇

同作。此二種トモニ木ニテ作ル。金箔ヲ置ル

物ナリ。灌頂ノ時幡ヲ掛ル具ナリ。

鈴

一箇

弘法大師所持卜傳了。

鐘樓

堂 = 向戸左 = あり。銘文左 = 載不。

大日本國武州六浦庄。金澤郷知足山龍卒寺唱鐘知識文。

夫滄海者鱗甲所潛。叅岳者翔蹄所集。則知智池者念塵所浴。靈鐘者苦類所息。然則洪鐘隆鼓。烏非但留叱王之望。叙兼亦歟。灰河之難獄。故經云一打鐘聲。當願衆生。脫三累苦。得見菩提。菩薩勝惠者。乃至盡生死。恒作衆生利。而下趣涅槃。般若及方便。知度悉加持。

諸法及諸有一切皆清淨。慾等調世間。

令得淨除故。有頂及惡趣。調伏盡諸有。

如蓮體不染。不為垢所染。諸慾性亦然。

不淨利群生。大慾得清淨。大安樂富饒。

三累得自在。能作堅固利。

天文十年辛丑五月五日當寺住持法印權

大僧都善融

檀那古尾谷中務少輔平重長法名道傳

八幡社 堂 = 向戸右 = あり。境内、鎮守あり。小

社。

稻荷社 同シ並ニアリ。コレモ小社ナリ。

塔頭

葺藏院 門ヲ入テ左ニアリ。水照山ト號ス。本尊

不動。

福壽院 門ヲ入テ右ノトリツキニアリ。本尊正

觀音。弘法大師母堂ノ作ト云。徳海山ト稱ス。

引攝院 福壽院ニ續ケリ。本尊大日。海藏山ト號

ス。開山義辨。永正四年九月二十日寂ス。

光徳寺 堂ニ向テ右ニアリ。龍燈山ト稱ス。本尊

三尊ノ彌陀ハ信濃國善光寺ノ馬。関東四十八

靈佛ノ内ト云。二尺許ノ立像ナリ。

正學院

除地

小名野島浦ノ内。洲崎ニアリ。古義

真言宗。龍源寺ノ末。夕照山ト號ス。開山ノ名ヲ傳

ヘス。本堂五間四方西向。本尊大日二尺餘ノ座像。

外ニ荒神アリ。作物トノニ傳フ。秘シテ拜スルコ

トヲ許サス。

善應寺

除地

小名野島浦ニアリ。同シ末野島山

ト號ス。當寺古ハ野島山ノ頂ニアリシカ。南風ノ

ヲリカラ堂舎ヲ破損セシ故。コノ地ニ移レル由。

今ニ彼頂ニ善應寺屋鋪ノ名残レリ。本堂ハ六間

五間。本尊觀音ハ八寸許ノ立像ナリ。古ハ愛染
ヲ本尊トヒシガ。火災ニ罹リシ後改メ札所内
第八番ナリ。世代ノ内永祿九年三月十七日ニ寂
シテ源朝ト云アリ。コレヨリ舊キヲ傳ヘサレハ。
コレ関山ナルベシト云。

什寶

不動

一軀

臺座共ニ三尺許ノ座像。聖德太子ノ作。

愛染

一軀

五寸許ノ座像。弘法大師ノ作。

井

裏門ノ入口ニアリ。觀音水。又關伽ノ井トモ

云。水イト清冷ナリ。例ニ野島山上ヨリ引移ヒ

シ天神社アリシガ。今ハ廢シ神跡ハ本堂ニ在

ス。一尺餘ノ座像ニテ春日ノ作ナレ四寸許ノ

像ヲ腹籠トナレリ。コノ像殊ニ古物ニ見ユ。

圓明院

地年貞

廢寺トナリ。今其蹟ハ善應寺大門

ノ傍ニ残レリ。コレニ龍源寺末。本尊藥師一尺五

寸許ノ坐像ハ本寺ニテ預レリ。作佛トノニ傳フ。

地藏堂

地年貞

瀬戸橋ノ東ニアリ。堂三間四方。地

藏ハ長四尺ノ座像。金澤山稱名寺ト彫レリ。昔ヨ

ノ邊ニテ稱名寺境内ニテ。爰ニ大門アリシ由カ
ノ寺ニテ傳ヘリ。引撰院ノ持。
舊家

百姓太右衛門 山口氏ナリ。村中ニテハ世々將監
ト通稱ス。先祖ハ越後守某ト稱シ。北條氏ノ家人
ニテ高船ノ事ヲ奉リシヨシ。當時房州里見氏ヨ
リ與ヘシ文書ヲ家ニオカム。其文ニ。

今國中ノ高船ノ祀

ニ宗奉何ニテ津島
徳保亦教者ノ事其
平判米是也何件

房州里見義頼朱印



山崎守久

按スルニ。北條五代記ニ。當時相州海岸ノ村々ハ
敵國境半手ト號シテ年貢モ小田原へ半房州へ
半ヲ收メ。夫役モ敵味方ノ差別ナク。命スレニ徒
テコレヲ勤ムト云。越後守モ此例ニテ房州ノ船
役ヲモ勤メシナルベシ。御當代トナリテモ安
房上總ノ國ヨリ此浦ニ着スル所ノ船ヲ改ルコ
トヲ奉レリ。今猶シカリト云。

泥龜新田 鹿金澤新田

泥龜新田ハ。内河ノ西北ノ崖。漆ヘル地ニテ。天
待テ耕ス。江戸日本橋ヨリノ行程前村ニ同シ。氏
戸三軒。相傳フ當所ハ。寛文八年長島泥龜トイヘル
モノ。包カ財ヲ貴シテ新墾セリ。此人儒ヲ以テ擢ラ
レ。後ニ醫師トナリ。食祿五百石ヲ賜フ。晩ニ其祿ヲ
弟長島道仙ニ譲リ。己ハ爰ニ退隱シテ此所ヲ開墾
シ。終ニ農家トナル。今ノ里正團右衛門。ハ其子孫ト
リ。元ヨリ少許ノ新田ナレハ。村役助郷等ノコトハ。

公ヨリ免除セラレ。村内ニ相州浦賀ニ至ル往還ノ
リ。町屋村ヨリ來リ村ヲ經テ洲崎村ニ達ス。後、
二年十二月御代官坪井次右衛門檢地シテ。十五石
ノ高入トナレト云。此間ハ見取ニテ貢格ヲ収メラ
レシムルベシ。廢金澤新田ハ。明神祠前ノ橋ヨリ北
ノ方ニテ。則泥龜新田ノ地ニツキシナリ。天明五
年岸彦十郎公へ願ヒ上げ。巴カ財ヲ用ヒ内川ノ
入江ヲ埋メテ田圃トナシ。明六年御代官江川太
郎左衛門檢地シリ。同キ秋ノ洪水ニサシモ新墾
リシ田圃ハ悉クオシ流サレ。元ノサマトナリシヲ。

土地ノ里正團右衛門巴カ黄金ヲ賣シ。再ヒ開墾
シニ。猶漸浸シ入テ入海トナレリ。名ニ聞エタル金
澤ノ望モ。一度其様ヲ失ヒシ也。次第ニ復シテ今ハ
元ノ風景トナレリ。

小名

平方

山川

野島山 南方ナリ。高ハ五六丈。洲崎村内野島浦ニ
接セリ。

イアシ島 内川ノ東南。瀬戸橋ノ北ナリ。總ニ三坪

許ノ地ナリ。美ニ照天松ト云アリ。姫小松トモ呼。
古木ハカレテ若木ナリ。土人云。古照天姫ヲフ。
人ニ所ナリト。鎌倉志ニモ。照天姫ヲフスベシ時
ノ松ノ木ノ蹟。故ニ姥カ焼サシノ松トモ云。延寶
庚申ノ大風ニ吹折テ。根株ノミ存ストアリ。照天
姫カ事世俗ノ云傳フル説タシカナラス。鎌倉大
草子ニ。應永三十年常陸國小栗ノ城没落セシ後。
小栗小次郎ヒソカニ関東ニアリシガ。相州権現
堂ト云所ヘ行クトテ。其道ニシテ強盗ノ為毒酒
ヲヒテ害セラレントス。其夜酌ニ立ケル照天姫ト

云。遊女^光間小栗ニ逢ナレシニヨリ。エレテ哀ミ。
ヒソカニ毒酒ノコトヲ告ケル故。小栗ハ酒ヲ飲
ヤウニモテトシテ。更ニ飲ズ。隙ヲ伺テ藤澤ノ道
場ヘ落行タリ。強盗等小栗ノ家人并ニ遊女ノ醉
フシケルヲ。河水ニ流シ沈メケレトモ。遊女ハ醉
ケル体ニモテナシテ。モトヨリ酒ヲ飲サリケレ
ハ。河下ヨリ甬上リテ助リケル。其後永享ノ頃小
栗三州ヨリ来リ。彼遊女ヲ尋出。種々ノ寶ヲ與ヘ
シ由見エタリ。今美ニ云傳フル照天姫トハ此点
姫カコトナルニヤ。

内川 入海ナリ里人爰ニテ漁獵ヲナセリ

町屋村

町屋村ハ。郡ノ南ニアリ。六浦庄ニ属ス。元ハ稱名寺
大門内ニテ。民戸軒ヲ連子住セシ故。コノ名ヲ負ハ
リ。御入國ノ後稱名寺領ニ狭リシヨリ。今ノ如ク
一村ナレリ。江戸日本橋ヨリノ行程前ニ同シ。氏
戸六十軒。コノ地ハ金澤遊覽ノ徒。憩息ニ便リヨキ
地ニシテ。詞人墨客等多ク爰ニ宿ヲカレバ。自ラ家
居モ少カラズ。物商ノ屋モ許多アリテ。頗ル賑ヘ
里民居村ノ四隣。東ハ海面ニ傍ヒ。其邊ヲ乙韌
云。

西ハ内川ノ入江ニテ。北ハ寺前村。西北ハ谷津村。十
リ。東西ハ四丁餘南北五丁。田圃ノ地ハ洲崎寺前津
濱岡柴等ノ村々ニ犬牙セリ。村内平夷真土砂交
リ。水田ノ方多ク陸田ハ少ク。水旱共ニ患アリ。土人
塩ヲ焼テ生産ノ資トス。相州鎌倉及浦賀ヘノ往還
ナリ。寺前村ヨリ洲崎村ニ通ス。村ニカ、ルコト凡
五丁。幅三四間。則鎌倉古街道ナリ。又街道ノ中程傳
心寺ノ口キヨリ。洲崎村ノ小名野島浦ノ邊ニ通ス。
ル道ハ。浦賀ヘノ捷徑ナリ。當村ハ金澤領ノ内十三
村持ノ驛場ニテ。浦賀ヘノ往來ハ東海道保土谷宿

ヨリ相州浦郡浦郷村ニ達ス。又船路ニテハ此地
ヨリ洲崎村ノ内小名野島浦ニテ總送り。相州三浦
郡横須賀村ニ通船ス。鎌倉ヘノ往來ハ同所雪下村
ニ達セリ。古ハ驛場ヲ定メス。領中十三村ニテ總送
シカ。近キ頃ヨリ當村ヲ驛ニ定メ。前ノ村々ヨリ定
助ヲ勤メ。又相州三浦郡ノ内三十一村ヨリモ加助
ヲ出セリ。往古ハ稱名寺領ナリ。御入國ノ後御料
所ニテ。正保ノ頃ハ八木次郎右衛門支配ニ。元禄年
中倉橋内匠杉浦八郎五郎等カ先祖ニ賜ヒ。今モ
カリ。檢地ハ御代官原田佐左衛門改メリト。年式ハ

傳へ大。

高札場

街道ノ内。北ノ方寺前村ニヨリテアリ。

小名

上 街道ノ内北ノ方ナリ。

下 コレモ街道ノ内。南ヲ云。

能見堂 谷津村能見堂ノ下ヲ云。

深井 赤井村ノ方ニ入會ヘリ。

白方 谷津村ノ北ナリ。

關入 能見堂ノ北ナル山間ヲ云。

夕ブキ 東北ナリ。

行田 コレモ同ジ邊ナリ。

乙鞆 東方ノ海邊ヲ云。八景ノ内ナリ。乙

鞆原又乙艦浦トモ云。

原野

可屋原 東方海邊乙鞆浦ノ續キ。洲崎村ト當村入

會ナリ。惣名金澤原ト唱フ。

神社

牛頭天王社 十餘ニ地ニ 街道ノ西下分ニアリ。社

二間四方東向。拜殿ニ間餘ニ二間。例祭ハ六月六

日ヨリ十三日ニ及ヘリ。頼戸明神ノ下社家來テ
祭レリ。村持。小名上下ノ鎮守ナリ。

末社

稻荷社ニ小社。

諏訪社 地年貞 街道ノ西ニテ。安立寺ノ持ナリ。今

廢シテ再建ナラス。

寺院

天然寺 除地 街道ノ中程ニアリ。浄土宗。相模國

鎮倉光明寺ノ末。法爾山ト號ス。本堂七間半四方

東向。本尊阿彌陀。立像三尺許。春日ノ作。開山法蓮

社然譽。永祿七年二月二十六日寂ス。傳燈總系譜。

禪芳法蓮社然譽。住武州品川願行寺為第三世。次

住鎮倉光明寺。又相州芥澤來迎寺。金澤天然寺。三

浦長安寺開山云々ト見ユ。

什寶

不動畫像

一幅

弘法大師ノ筆ト云。コノ外ノ什物モアリシ
カ。今ハ失ヘリ。

鐘樓 門ヲ入テ右ニアリ。中古廢セラレシ御

安宅丸ノ鎖ヲ以テ鑄シモノナリトイヘト。定

カナラス。

傳心寺

除地一方。街道ノ中程ニテ。東横町ニテ。

禪宗曹洞派。相模國小田原香雲寺ノ末。大永峯嗣

法山ト號ス。本堂ハナク。本尊釋迦ノ坐像ハ假堂

ニ置リ。開山養拙宗牧。開基ハ北條左京大夫氏直。

大永元年ノ起立ト傳レド。大永元年ハ氏直未生

ノ時ナリ。其頃ハ左京大夫氏綱ノ代ナレバ。此人

ノ開基ナルモ知ベカラス。

鐘樓 門ヲ入テ右ニアリ。寛永十八年洲崎村ニ

住セシ窪寺。檢校拾翁宗越居士ノ發願ニテ。鑄

シモノナリ。後破壊シケレバ。寶曆十二年改鑄

セシコトヲ銘ニ載ス。

白山権現社 ヲレニ門ヲ入テ右ニアリ。小社ナ

リ。

安立寺

除地六村ノ中程ニアリ。福船山ト號ス。

法華宗。相州鎌倉山金谷妙本寺ノ末。古ハ下総國

葛飾郡中山法華經寺ノ末ナリシカ。三百年前。中

興日嘗ノ時。今ノ末トナレリ。相傳テ當寺ハ往古

修驗ニテ。安立坊ト稱セリ。宗祖日蓮。富木五郎

總ト船中問答ノ時。當寺ニ來リテ。猶又問答アリ

安立坊傍ニアリテ開シヨリ。日蓮ヲ深ク信
仰シテ。遂ニ改宗セリ。故ニ當寺船中間峇ノ舊蹟
ナリト云。サレト六浦上行寺。及杉田村妙法寺ニ
テモ。船中間峇ノ舊蹟ナルヨシ傳テハ。何レカ
其實蹟ナルヲ知ス。本尊三寶ヲ安ス。外ニ日蓮ノ
像アリ。草鞋ヲハキ。腰ヲ掛シ像ナリ。コハ船中間
峇ノ時ノ姿ヲ。富木胤継彫刺シ。日蓮ニ請テ開眼
セシメ。安立坊ニ與ヘシモノナリト云。
鐘樓 門ヲ入テ右ニアリ。享保元年ノ鐘銘アリ。
稻荷 本堂ニ向テ右ニアリ。小社ナリ。

觀音堂 地年貢 道ノ東傍ニアリ。二間半ニ二間西
向。觀音ハ二尺四五寸ノ立像。傳教ノ作。六浦三分
ノ内小名瀬戸圓通寺ノ持。
地藏堂 地年貢 寺前村境。西側ニアリ。二間ニ三間
東向。地藏ハ一尺五寸許ノ坐像ナリ。十五モ安ス。
龍源寺ノ持。
墳墓
入定塚 小名乙勒ニアリ。百二三十年前。傳海トイ
ヘル行峇ガ入定セシ處ト云。土俗傳海ヲ訛テ
カイ坊ナド云。

古蹟

千光院蹟 傳心寺ノ向ニアリテ。洲崎村龍源寺ノ

末ナリシ由。イツシカ廢シテ今ハ田圃トナレリ。

陣屋蹟 小名上下ノ境ニアリ。御代官所タリシ頃

ハ。爰ニ陣屋アリシ由。

舊家

百姓作兵衛 世々當村ノ民ニテ。鍛冶ヲ業トヒリ。

小田原北條氏ヨリモ鍛冶ノコトヲ命ビシ由。其

時ノ文書四通ヲ藏ス。其文左ノ如シ。

三河守殿教信之丞

年方乃切身存林之切

負中者乃切身存林之切

の切

丁卯

十月廿五日

宛

多
経のの

から筆立

一 卯と 令辰

一 卯と 卯卯

一 卯と ひのみち

一 卯と ちよき

望月行と
計外

吉海へ書返す

望

右へから書返す

月一の方何とせんお浦

かゝる方書はをたまにお

海へ書多しや判りき

其の必浦かゝるあ

一人と書かたゝ

傳
三
年
之
事
新
報
紙

北條氏虎印

北條氏虎印
七月
七日
印

北條氏虎印

二引と昔還る昔亦也何如

件



今印
浦安年々 印

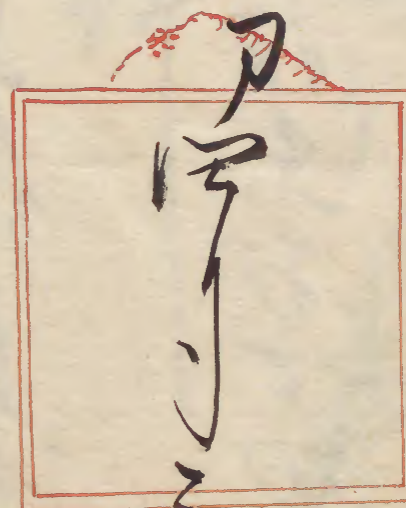
按スニ北條氏傳馬指揮ノ朱印ナリ

伊東新左衛門の如く船に娘降後用ひ

て名仕得まされ無難に致し御之を以

て伊東新左衛門の如く

北條氏虎印



刀
字
三
方
左
山
右
中
氏

字
三
方

左
山
右
中
氏

新編武藏風土記卷之七十四終

